

社団法人 埼玉県経営者協会会報



2・3

'12 月号

平成24年新年会員懇談会開催

特別講演 『経営者のリーダーシップ』今こそ本田宗一郎に学ぶときと題し伊丹敬之氏が講演

平成二四年新年会員懇談会は二月一日(水)一三時三〇分から同一七時まで、パレスホテル大宮で開催された。

当日の出席者はご来賓の方々ならびに会員あわせて三〇〇名であった。(ご来賓のご芳名は四頁参照)

また特別講演として、経営戦略論の世界的権威である、東京理科大学大学院イノベーション研究科長で一橋大学名誉教授の伊丹敬之氏より「経営者のリーダーシップ」

今こそ本田宗一郎に学ぶとき」と題して講演が行われた。

伊丹氏は、本田宗一郎の経営者としての生涯を振り返りながら、あるべき経営者像について講演を行い、参加者は大きな感銘を受けた。講演のポイントは以下の通り。

◆経営者の三つの役割と賞賛

経営者の三つの役割は、①集団の求心力の中心としての「リーダー」、②社会へ組織を代表する「代表者」、③戦略や組織の「設計者」の三つであり、また役割の重要性はこの順序で重要である。

◆経営者は後に何を残すべきか

金や設備ではなく、三つの「目に見えない」基盤を残すべきであり、その三つとは、

①ものの考え方としてのDNA、②知識基盤、技術基盤としての人材、③事業基盤としての事業と組織の枠組み

◆夢を描く力の源泉

リーダーの夢を描く力の源泉は、①夢を持つとする強い意志、②失敗を呑み込む広さ、③実現へのエネルギーを描ける能力、エネルギーの三つである。

◆退陣後の成長こそ、経営者の勳章

人材を蓄積していくためには、①高い目標に向かう旗を掲げる、②「生の人間」の真実を考えさせる指針を与える(三現主義)、③教育者として、有意義な修羅場を準備し、その先頭に立つてインスパイアすることの三つが重要。

◆言葉の達人へ頭に残る言葉

(本田宗一郎語録)

①成功は九九%の失敗に支えられた1%である。

②目先の成績にこだわり、独自の哲学に基づく創意を少しでも放棄するような考え方が生まれたとき、企業は転落と崩壊の道をたどりはじめる。

③いくら技術がよくても思想がだめだと、その技術は活かすことはできない。

④理念なき行動は凶器であり、行動なき理念は無価値である。

◆言葉の達人へ心に沁みる言葉

(本田宗一郎語録)

①明日咲かせる花は、今、種を蒔いておかなきゃいけない。

②他人の気持ちになれる人というのは、自分が悩む。自分が悩まない人は、他人を動かすことはできない。

③やってもみませんで何が分かる。(詳細は既送付済の講演資料ご参照) 当日のプログラムは次の通り。

【第一部 挨拶・講演の部】

開会挨拶 森谷 文昭会長代行

来賓挨拶 (株)日本ビストンリング名誉顧問 さいたま市長 清水 勇人氏

経済産業省関東経済産業局長 照井 恵光氏 厚生労働省埼玉労働局長 安藤よし子氏 埼玉県教育委員会教育長 前島 富雄氏

来賓ご紹介

特別講演

演題「経営者のリーダーシップ」今こそ本田宗一郎氏に学ぶとき

講師 株式会社 東京理科大学大学院イノベーション研究科長 一橋大学名誉教授 伊丹敬之氏

講演謝辞 藤池 誠治副会長

(株)デサン代表取締役

【第二部 懇親パーティーの部】

開宴挨拶 椎名 幹芳副会長

(三国コカ・コーラボトリング)代表取締役 役社長

来賓祝辞 埼玉県知事 上田 清司氏

乾杯 埼玉大学学長 上井 喜彦氏

懇談 吉野 寛治副会長

閉宴挨拶 (吉野電化工業)代表取締役社長



特別講演会「経営者のリーダーシップ」今こそ本田宗一郎に学ぶとき



開催挨拶をする森谷会長代行



▲主要来賓・役員記念撮影

会場スナップ



▲会場

▶来賓挨拶 安藤よし子厚生労働省埼玉労働局長



▶来賓挨拶 照井恵光経済産業省関東経済産業局長



▶来賓挨拶 清水勇人さいたま市長



◀特別講演会・講演風景



◀来賓挨拶 前島富雄埼玉県教育委員会教育長



▲パーティーの部閉宴挨拶
椎名幹芳副会長



▲講演に対し謝辞を述べる
藤池誠治副会長



▲講演する一橋大学名誉教授
伊丹敬之氏



▲パーティー風景



▲パーティーの部乾杯挨拶
上井喜彦埼玉大学学長



▲パーティーの部来賓祝辞
上田清司埼玉県知事



▲パーティーの部閉宴挨拶 吉野寛治副会長



▲パーティー風景

| | |
|----------------------|----|
| ○ 新年会員懇談会開催 | 1 |
| ○ 会場スナップ | 2 |
| ○ 同来賓名簿 | 3 |
| ○ 青年経営者部会新春特別講演会 | 4 |
| ○ ものつくり大学特別公開講座 | 5 |
| ○ 平成二三年度第七回・第八回トップ | 6 |
| ○ セミナー | 7 |
| ○ 埼玉大学・本会合同特別公開講座第 | 8 |
| ○ 四講・経営者のために法人税制セミ | 9 |
| ○ ナー | 10 |
| ○ 平成二三年度第二回人事労務委員 | 11 |
| ○ 会・「埼玉県の働きがいのある会社 | 12 |
| ○ 調査」表彰式 | 13 |
| ○ 地区協議会開催 | 14 |
| ○ 日本経団連労使フォーラム開催 | 15 |
| ○ 第二五回生き生き職場体験交流の集 | 16 |
| ○ い | 17 |
| ○ 連載この人・会員企業紹介 | 18 |
| ○ 日本メタルガスケット(株)代表取締役 | 19 |
| ○ 会長 植田耕作氏・広告 | 20 |
| ○ 地区会員企業ホットな話題 | 21 |
| ○ インターシンプ報告会 | 22 |
| ○ 四半期企業経営動向調査結果 | 23 |
| ○ 節電の取組みに関するアンケート調査 | 24 |
| ○ 結果 | 25 |
| ○ 四者面談会開催 | 26 |
| ○ 埼玉大学研究者との出会いの広場 | 27 |
| ○ 連載「ものつくり大学」へようこそ | 28 |
| ○ 青年経営者部会×千葉県経営者協会 | 29 |
| ○ と合同で企業見学会開催 | 30 |
| ○ 就職未内定学生と企業との面接会開 | 31 |
| ○ 催・広告 | 32 |
| ○ 洪沢栄一賞・荻野吟子賞表彰 | 33 |
| ○ 埼玉県からのお知らせ | 34 |
| ○ 日本経団連 提言・提案、労働法ゼ | 35 |
| ○ ミナール | 36 |
| ○ 事業だより、こんな時にこんな事を | 37 |
| ○ 広告 | 38 |
| ○ 告知版、会員の動き、埼玉音協 | 39 |

目次 頁

来賓に各界から多士済済

(敬称略・順不同・役職名は開催日現在)

▽埼玉県知事 上田清司

《講師》

▽東京理科大学大学院イノベーション研究科長 一橋大学名誉教授 伊丹敬之

《国関係》

▽経済産業省関東経済産業局長 照井恵光
▽経済産業省関東経済産業局 地域経済部長 増田 仁
▽厚生労働省埼玉労働局長 安藤よし子
▽厚生労働省埼玉労働局 総務部長 坪田一雄

▽厚生労働省埼玉労働局 労働基準部長 安川裕久
▽厚生労働省埼玉労働局 職業安定部長 小野寺徳子

▽厚生労働省埼玉労働局 雇用均等室長 渡辺桂子
▽厚生労働省埼玉労働局 職業安定部職業安定課長 斉藤明男
▽厚生労働省埼玉労働局 総務部企画室長 武政隆司

▽厚生労働省埼玉労働局 労働基準部貸金室長 大芦 誠
▽防衛省自衛隊埼玉地方協力本部 本部長 安藝 一

《県関係》

▽産業労働部 部長 松岡 進
▽産業労働部 産業労働政策課長 小川良和
▽産業労働部 産業支援課長 正能修一
▽産業労働部 勤労者福祉課長 高橋利雄
▽産業労働部 就業支援課長 杉野勝也

▽埼玉県産業技術総合センター センター長 牟田口照恭
▽埼玉県産業技術総合センター 副センター長 鈴木康之

▽創業・ベンチャー支援センター 所長 立川吉朗

▽埼玉県労働委員会 会長 馬橋隆紀
▽埼玉県労働委員会 事務局長 田中 寿
▽埼玉県労働委員会 使用者委員 北風良雄

▽埼玉県労働委員会 使用者委員 鹿島利友
▽埼玉県労働委員会 使用者委員 坂田秋雄
▽教育委員会 教育長 前島富雄

▽さいたま市長 清水勇人
▽さいたま市 経済局長 森田 治

《市関係》

▽埼玉県労働委員会 使用者委員 鹿島利友
▽埼玉県労働委員会 使用者委員 坂田秋雄
▽教育委員会 教育長 前島富雄

▽さいたま市長 清水勇人
▽さいたま市 経済局長 森田 治

《商工団体関係等》

▽埼玉県商工会連合会 会長 大久保義海
▽埼玉県中小企業団体中央会 会長 星野 進
▽埼玉経済同友会 代表幹事 荻野芳朗
▽埼玉県産業振興公社 理事長 山本碩徳

▽埼玉県信用保証協会 会長 後閑 博
▽さいたま市産業創造財団 理事長 江田元之
▽埼玉県商工会議所連合会 専務理事 中島 滋

▽埼玉県物産産観光協会の会長 山崎嘉正
▽埼玉県産業文化センター 専務理事 後閑小径
▽産業雇用安定センター埼玉事務所 所長 神山哲雄

▽埼玉県雇用対策協議会 専務理事 篠原保夫
▽独高齡・障害・求職者雇用支援機構埼玉職業訓練センター 所長 徳留光明

▽埼玉県職業能力開発協会 事務局長 杉戸雄司

▽埼玉りそな銀行 代表取締役社長 上條正仁
▽埼玉りそな銀行 代表取締役副社長 戸所邦弘
▽埼玉りそな銀行 専務執行役員埼玉西地域営業本部長 村木 徹

▽埼玉りそな銀行 執行役員埼玉北地域営業本部長 関川朋史
▽埼玉りそな銀行 執行役員埼玉東地域営業本部長 藤田正幸

▽埼玉りそな銀行 県庁支店長 田中 洋
▽埼玉りそな銀行 大宮西支店長 浅香哲也
▽埼玉りそな銀行 公共法人部長 猪俣 章

▽(株)武蔵野銀行 常務執行役員本店営業部長 飯島莊衛
▽(株)武蔵野銀行 公務渉外部長 一柳幸男

▽埼玉大学 学長 上井喜彦
▽埼玉大学 理事・副学長 川橋正昭
▽埼玉大学 副学長 八木正一
▽埼玉大学 経済学部 副学部長 柳沢哲哉

▽埼玉大学 研究協力部長 谷本 滋
▽埼玉大学 参事役 小林裕一
▽埼玉大学 地域オーブンイノベーションセンター 准教授 濱田 豊

▽(財)本庄国際リサーチパーク研究推進機構 専務理事 嶋根 繁
▽ものづくり大学 学長 神本武征
▽ものづくり大学 理事長 石岡慎太郎
▽埼玉県立大学 事務局長 高山次郎

▽東京経営者協会 専務理事 田中 清
▽(株)埼玉労働者福祉協議会 専務理事 竹花康雄

▽(株)埼玉新聞社 代表取締役社長 小川秀樹
▽(株)埼玉新聞社 編集局産業経済部記者 秋谷明宣
▽(株)テレビ埼玉 代表取締役社長 平本一郎
▽(株)テレビ埼玉 報道制作局制作部長 出井恭一

▽日本放送協会 さいたま放送局長 畑野祐一
▽日本経済新聞社 さいたま支局長 花見宏昭
▽日刊工業新聞社 さいたま総局長 芦内秀郎

▽産経新聞社 さいたま総局長 杉山 広
▽時事通信社 さいたま支局長 久保田浩
▽産経新聞社 元編集委員 野口貢一
▽(株)ぎょうせい 石川章一郎

▽(株)東京国際研究所 公認会計士 飯野事務所 飯野浩一
▽(株)東京国際研究所 所長 稲葉英幸

▽(株)武蔵野銀行 常務執行役員本店営業部長 飯島莊衛
▽(株)武蔵野銀行 公務渉外部長 一柳幸男

▽(株)武蔵野銀行 公共法人部長 猪俣 章

▽(株)武蔵野銀行 常務執行役員本店営業部長 飯島莊衛
▽(株)武蔵野銀行 公務渉外部長 一柳幸男



▲ご来賓の方々

「ストーリー」としての競争戦略 「優れた戦略の条件」と題し 楠木 建氏が講演

青年経営者部会 新春特別講演会開催

青年経営者部会主催による平成二十四年新春特別講演会が、二月二十七日(月)午後、パレスホテル大宮において、来賓、一般、部会員合計百七十余名が参加し開催された。事前に行われた定例会では、四月に開催する四月例会、五月に開催する定時総会、十一月十六、十七日に高知で開催される全国大会、2014年に埼玉で開催する全国大会等々について、議論した。

新春特別講演会は、川本武彦副部会長(サイサン・社長)の司会・進行で執り行われた。

開会挨拶に立った松本伸一郎部会長(松本商会・社長)は、最近の円高、原油高等々経済状況を憂いながら、我々青年経営者部会は、

しっかりとした倫理観を持ちながら、時代に即応した経営を心がけ、社会に貢献して参りたいと述べた。また、五十歳未満の事業継承予定者を入会資格に加えているので、是非とも多くの皆様に仲間に加わっていただき、ともに歩んでいただければと挨拶を結んだ。

来賓としてご出席いただいた親会の森谷文昭埼玉県経営者協会会長代行は、現下の経済情勢を分析され、円高や世界景気の減速に、タイの洪水が重なり輸出が低迷、実質GDPは、対前期比年率で、2・3%のマイナスとなり、2四半期ぶりのマイナス成長となったこと。そして、今後については、震災からの復興需要の本格化に伴

い、緩やかな回復軌道に戻るとの見方が多いものの、欧州危機の先行きには、予断を許さず、輸出にも不安があるなど、景気の本格回復には、なお課題が残るという状況にあるのではないかと話された。だが、本田宗一郎の「チャレンジして失敗を恐れるよりも、何もしないことを恐れる」との言葉通り、経営者の皆様は、是非この言葉通り、積極的にチャレンジし、危機をチャンスに変えていっていただきたいと挨拶を結ばれた。

講師をお願いした楠木 建氏のプロフィールは、1964年、東京都目黒区生まれ。1992年、一橋大学商学研究所博士課程修了。一橋大学商学部助教授、一橋大学イノベーション研究センター助教授、ボッコニー大学ビジネススクール(ミラノ)客員教授を歴任。2000年に一橋大学大学院国際企業戦略研究科が創設されるとともに異動し、同研究科助教授。2010年より現職。主な著書としては、「ストーリーとしての競争戦略―優れた戦略の条件―」(ビジ

ネス・アーキテクチャ)「知識とイノベーション」など多数。「ストーリー」としての競争戦略―優れた戦略の条件―は、一昨年5月の発行以来、主要メディアで紹介、絶賛を浴び、その500ページを超える経営学の大著としては、発行部数が異例の16万部を超えた。講演は「ストーリーとしての競争戦略―優れた戦略の条件」と題して行われた。

企業活動の目的は、長期利益であり、実現のために競争戦略を立てる。そこで、他社との違いをどのように運動させ、利益に結びつけるかを示すことだ。そして、紹介したのが、アマゾンの戦略で、コンセプトは本ではなく、購買の意欲決定を助けるサービスを売る事であった。だが、その一方で世界中に倉庫を作って、大量の在庫を抱えた。在庫不要が利点であるネットビジネスにおいて、非合理、非効率に映るが、購買の意欲決定には商品配送の約束が欠かせないため、アマゾンのストーリーの中には、合理的な考え方なのだ。

一つの時代も、思わず人に話したくなるような面白いストーリーを、自社の戦略として構築することが、経営者の重要な要件でもあり、顧客や社員がわくわくするよう、ストーリーを熟く、面白く語ってほしいと講演を結ばれた。

講演後、梶原靖友副部会長(梶原工業・専務)が謝辞を述べ、第一部は終了した。

第二部の懇親会は藤池一誠副部会長(デサン・専務)の司会・進行で開宴した。初めに、初代部会長であり、また、埼玉県経営者協会副会長でもある藤池誠治氏より挨拶をいただいた。続いて、利根忠博埼玉県経営者協会特別顧問に埼玉の地酒で乾杯の音頭を取っていただき、多くの会員の皆様とともに、会は和やかな雰囲気の中懇談が続いた。最後に閉会の挨拶を増田 学幹事(友栄塗装・社長)が行い、会の活性化と魅力作りに邁進し、会員を増強したいと述べ、新春特別講演会は盛会裏の内にお開きとなった。



過去最多の参加者があった



開会挨拶する松本伸一郎部会長



来賓挨拶する森谷文昭会長代行



講演する楠木 建氏



懇親会にも100名の方々が参加し大いに懇親が図られた

ものづくり大学特別公開講座

「はやぶさ、そうまでして君は一生 みの親が明かすプロジェクト秘話」

～JAXAシニアフェロー 川口淳一郎
氏が講演、—過去最多の450名（高校生
生一一〇名も参加）が参加し開催

ものづくり大学と本会が共催し、

埼玉県、埼玉県教育委員会、埼玉

新聞社が後援した「ものづくり大

学特別公開講座」が二月十三日(月)

パレスホテル大宮で開催され、一

一〇名の高校生、教育関係者、一

般公募の方、会員企業、国や県の

関係機関など、過去最多の四五〇

名が参加して開催された。この講

座は、ものづくり大学と本会が地

域社会への貢献活動として開催し

ているもので、今回で八回目の開
催となった。

開講にあたり、まずものづくり

大学の石岡慎太郎理事長、本会森

谷文昭会長代行より主催者挨拶が

行われ、その後、「はやぶさ、そ

うまでして君は」生みの親が明

かすプロジェクト秘話」と題して、

独立行政法人宇宙航空研究開発機

構シニアフェローで、宇宙科学研

究所宇宙航空システム研究系研究

主幹 教授 川口淳一郎氏より講

演が行われ、その後、会場から活

発な質問も出され、講演会は盛会

裏に終了した。（講演のポイント

は以下の通り）

そして、最後にものづくり大学
神本武征学長の挨拶により本講座
は閉会した。

講演のポイント

講演は、まず公開中の映画の製
作経緯等の説明から始まり、続い
て太陽系、地球の起源を知るとい
うはやぶさプロジェクトの目的の
説明が行われた。

その後、以下のような「旅立ち」、

「成功」、「旅のはじまり」、「帰還」

までの各ステージのはやぶさプロ

ジェクトの進行状況等についての

詳しい説明が行われた。

◆「旅立ち」

二〇〇三年五月、小惑星からの
サンプルリターンという前代未聞
の使命を帯びてM-Vロケットで
打ち上げられたはやぶさの希望と
期待を乗せた「旅立ち」。

◆「成功」

二〇〇五年九月の小惑星「イト
カワ」上空二〇kmに静止。その後
様々な角度から観測、降下、サン
プル回収に乗り出した「到着」
無事成功したかに思えたが、そ

の後の惑星探査ローバ「ミネル
バ」投下の失敗、そして歴史的偉
業となったはやぶさいトカワへの
タッチダウンの「成功」

◆「旅のはじまり」

歴史的な偉業から数時間後のエ
ンジンからの燃料漏れ事故の発生。
その後の通信の途絶など、地球帰
還までのあまりにも過酷な、もう
一つの「旅のはじまり」。

◆「帰還」

二〇一〇年六月の六〇億kmに及
ぶ航海を終え、地球に帰還。カプ
セルを切り離れたのち、大気圏に
再突入。巨大な火球となってその
使命を終えた「帰還」。

講演の中で、川口氏ははやぶさ
を成功に導いた経験から、プロジ
ェクト遂行のための心構えとして
以下の点を挙げられた。

- ① どんなルールも最初から信奉す
ることなかれ。
- ② 「神頼み」をするほど、すべて
の努力をやりつくしたか。
- ③ 往生際はよくすべし。
- ④ 奇跡のチームワーク

⑤ 意思決定の層は薄ければ薄いほ
どいい。

⑥ 壁にぶち当たったらリーダーは
アクションを起こせ。

⑦ 「あきらめない」粘りと「とら
われない」独創性が未来を開く。

そして、最後に「はやぶさ」で
本当に伝えたいこととして、以下
のように述べられ講演を締めくく
られた。

「はやぶさプロジェクトが示せ
たもので、もっとも大きいのは、
『新しい発想』。日本もそういう
創造性を発揮できる国だというこ
とです。『根性』があつたから、
遂行できたわけではないのです。

日本は、人類がいままでやった
ことがない、考えたこともないも
のを実現できる国だということを
いまたに、若い方々に知ってほし
い。

次の世代は日本を変えていかな
くてはならない。『はやぶさ』が
そのきっかけとして発信すること
それが、このプロジェクトのゴー
ルだと私は思っています」。



過去最多の450名の参加があ
った



主催者挨拶 石岡慎太郎ものつ
くり大学理事長



主催者挨拶 森谷文昭本会会長
代行



講演をする川口淳一郎氏



閉会挨拶 神本武征ものつくり
大学学長

第七回トップセミナー開催

「スマートフォン、ソーシャルメディアの将来と企業ビジネスへの影響」について、日本経済新聞論説委員・関口和一氏が講演

平成三年度第七回トップセミナーは、一月一六日(金)ソニックシティイビル四階市民ホールで八二名の方々が参加し開催された。

第七回のトップセミナーは、スマートフォン、ソーシャルメディアが急速に普及しつつある状況を踏まえ、「スマートフォン、ソーシャルメディアの将来と企業ビジネスへの影響」と題して、ICT関連の論説で有名な日本経済新聞社・論説委員兼編集委員の関口和一氏を講師として迎え開催した。

関口氏は、まず「ネットのこちら側からこちら側へ」「パッケージからクラウドへ」「高機能OSからWindowsへ」「デスクトップからスマートフォンへ」への変化など、ICTのパラダイムシフトについて説明するとともに、実際にインターネットに接続し、「オンシート」「ユーレット」「エンフォリア」などの先進

的なクラウドサービスを紹介した。

そして、今後急速に企業のクラウド利用が進展するとともに、インターネットの世界に存在するビッグデータの活用が企業経営を左右する可能性にも言及した。

次に、急速にICTの活用が進展する欧米・新興国に対して、日本は、①携帯電話に代表されるガラパゴス現象、②個人情報保護アレルギーの異常さ、③著作権の過保護体質という、日本固有の三つの課題からICTパラダイムシフトという世界の潮流に乗り遅れている日本に対し警鐘を鳴らした。

特に、政府、教育、マスコミが日本の情報化を拒む三角形であると批判した。

最後に今後の企業経営の鍵を握るのが「スマート・クラウド戦略」で



講演する関口和一氏



第7回トップセミナー全景

あり、具体的には、クラウド時代のICT基盤づくりに向けて、経営トップの意識改革、安全神話を見直し過保護政策による高コスト体質からの脱却、ソーシャル技術の活用等が不可欠であると強調した。

第八回トップセミナー開催

「リーダーシップからフォロワーシップへ部下のパフォーマンスを最大限に引き出す組織論」について、前早稲田大学ラグビー部監督 中竹竜二氏が講演

平成三年度第八回トップセミナーは、一月一七日(火)ソニックシティイビル四階市民ホールで一八名の方々が参加し開催された。

第八回のトップセミナーは、早稲田大学ラグビー部監督として大学選手権で早稲田大学の二連覇を達成し、現在(財)日本ラグビーフットボール協会コーチングディレクターの中竹竜二氏を講師として迎え、「リーダーシップからフォロワーシップへ」部下のパフォーマンスを最大限に引き出す「組織論」と題して開催した。

中竹氏からは、「どんなリーダーでもフォロワーでもその組織のメンバーであれば、必ず組織を変革することができる。最終的には決断を下すのはリーダーだが、常にフォロワーもリーダーと同じように主体性を持つて考える」こんな理想的な組織づくりについて語っていただいた。講演の中で中竹氏が強調した点は以下の通り。

◆フォロワーシップとは、リーダー中心ではなくチーム中心の考え方で、

そして、最後に、経営者に対して、今後のクラウド時代の成功の秘訣は、「自分より若くて自分より頭のいい人物と組むことだ」という米国の著名なIT起業家であったジム・クラークの言葉を引用して講演を終了した。

リーダーの責任である。◆理想のフォロワーシップは「役割分担と責任分担」ではなく、「自律貢献と責任共有」である。また、最後に中竹のリーダーとしての心構え(持論・哲学)について以下のような説明があった。

- ①できないことはやってはいけないうフォロワーにやってもらうしかない。
- ②自分の力を見限る一夢を見ず、背伸びをせず、身の丈に合った姿勢。
- ③勇気を持って告白し監督に期待するな。
- ④ヒトはそれぞれ全員、違うことを知る一斉指導では行き届かない。だからこそ、一人ひとり個別にながらる。
- ⑤リーダー自身ができなかったことをやらせる使命がある。



注目の講師の講演に120名近い参加者があった



講演する中竹竜二氏



講演終了後講師(右)と名刺交換をする参加者

平成二二三年度第四講開催

「今後の世界経済の動向と日本経済への影響」について相沢幸悦教授が講演

平成二四年二月二八日(火)一四時からソニックシテイビル会議室において、埼玉大学と本会との合同特別公開講座平成二二三年度第四講が開催された。第四講は、埼玉大学経済学部教授相沢幸悦氏を講師として迎え、「今後の世界経済の動向と日本経済への影響について」と題して講演が行われ、会員など八〇名が参加した。

◆金融相場の危うさ

足元の世界的な株価上昇は、世界的な金融緩和策に伴うものであり、これは「時間を買う政策」に過ぎない。金融緩和により流動性で株価が支えられている内に、構造問題に道筋をつけ、実体経済を前進させなければ効果は薄れてくる。

◆世界経済の動向と日本経済

欧州はユーロを守るために、米国は政治の対立によって、大幅な財政赤字の圧縮を強制されているが、そ



80名の参加者があった



講演風景



講演する相沢幸悦氏

これは皮肉なことに「日本化」を回避する道である。また、新興国バブルも崩壊しつつあり、世界景気はさらに低迷する。一方、日本経済は為替介入ができて、超円高が進むことで更なる景気の低迷とデフレに襲われる。

◆日本の生きる道―生産・事業モデルの大転換
これまでの「いいモノを安く多く」つくる生産・事業モデルでは、新興国との熾烈な競争に勝つことはできない。日本のモノづくり技術は、

この間に長期不況のなかで海外に流出してきたからである。同じ土俵で競争しようとして、企業は徹底的なコスト削減に取り組んできたために、「円高・デフレ・賃下げ」の悪循環に襲われてきた。

平成大不況からの脱却は、従来の日本経済の生産・事業モデルの大転換が不可欠である。具体的には、「ユニークなモノ、新しいモノを高く少

経営者のための法人税制セミナー開催

KPMG税理士法人パートナー 遠藤達也氏が講演

平成二四年二月二日(水)一四時からソニックシテイビル会議室において、「経営者のための法人税制セミナー」が開催され、KPMG税理士法人パートナー 税理士 遠藤達也氏から「復興特別税及び平成二二三年度税制積み残し項目のポイント」平成二四年度税制改正案のポイント」並びに「海外進出に係る税務上の留意点」について講演が行われ、三〇名の会員が参加した。

◆復興特別税及び平成二二三年度税制改正積み残し項目の説明内容

- 一、平成二二三年度税制改正の経緯
- 二、復興特別税
 - (一)復興特別法人税
 - (二)復興特別所得税
- 三、法人税
 - (一)法人税率
 - (二)欠損金の繰越控除
 - (三)減価償却



講演する遠藤達也氏

しずつ」つくる生産・事業モデルへの大転換が必要である。そして、最後に「消費増税なしで政府債務一千兆円がゼロになる国家経済学」と題して、国債の株式化等の奇論の紹介があった。そして、未曾有の政治的・経済的困難に遭遇している現在の日本では、奇論、珍論も考えるべき時にきているのではないかと述べ、講演を締めくくった。

- 四、納税環境整備
 - (一)更生の請求期間の延長
 - (二)更生の請求等の範囲の拡大
- 四、納税環境整備
 - (四)貸倒引当金
 - (五)寄附金
 - (六)試験研究費の特別控除
 - (七)その他の租税特別措置
 - (八)外国税額控除

◆平成二四年度税制改正案のポイント



講演を聞く参加者

- 一、国際課税
 - (一)過大支払利子課税(創設)
 - (二)国外財産調書制度(創設)
- 二、法人税
 - (一)試験研究費の特別税額控除
 - (二)その他の主な租税特別措置
- 三、個人所得税
 - (一)給与所得
 - (二)役員退職所得
 - (三)外国親会社等から付与されたストック・オプション行使等に関する調書制度(創設)
- ◆海外進出に係る税務上の留意点
 - 一、海外進出形態と税務
 - 二、海外投資のリターンに対する課税関係
 - 三、国際的な二重課税の発生と租税条約の役割
 - 四、現地法人設立時の税務上の留意点
 - 五、現地法人との取引価格に係る税務―移転価格税制
 - 六、日本人現地駐在員の給与負担と個人所得税
 - 七、外国子会社配当免税制度導入後の国際税務戦略

「先進企業の組織活性化等について学ぶ」

平成二三年度第二回人事労務委員会開催

平成二三年度第二回の人事労務委員会は、一月三日(月)ソニックスティイ四階市民ホールで、五五名の方が参加し開催された。現在、わが国企業を取り巻く経営環境は少子高齢化の進行、人口減少社会の到来、円高の進行、グローバル競争の激化など、厳しい情勢が続いている。

こうした中、各企業では、自社の成長・発展を目指し、様々な取り組みを実施しているが、こうした厳しい状況が続く今だからこそ、なおさら組織活性化策の重要性が高まってきていると考えられる。

こうした認識に基づき、二三年度の第二回人事労務委員会は、「先進企業の組織活性化策等について学ぶ」をテーマに二つの講演を行った。

まず、第一部の講演は、(株)プラン・ドゥー・シー、取締役 三原直氏より「働きがいのある会社で業績を挙げる」と題して行われた。

講演のポイントは以下の通り。
◆意思決定プロセスの中心には「商品」があり、「商品」を良くし続けるための、シンプルで素早い意思決定が当社の強みである。



講演する三原直氏

また、「商品」を中心とした組織づくりも、他社との大きな違いとなっている。当社では、「成長」を拡大ととらえるのではなく、「目標をやり遂げる力が大きくなること」と定義している。

◆目標とは、MUSTとWANTとCANから成り立っており、具体的な目標とは、新人にとっては小さな次のステップであるし、社長にとってはビジョンが目標である。また、目標は管理をしないで支援をしていくことが必要。

◆また、採用について最も重視する点は、当社の商品に魅力を感じる人材を採用することである。

続いて第二部の講演は、三菱グループ・人材開発部マネージャー鎌田克也氏から「社員がイキイキ・ワクワクと働き、チャレンジを続ける会社造りとは」と題して行われ、働きがいを高めるための当グループの具体取組内容について説明が行われた。取組みの概要は以下の通り。

- ①事前イベントの強化を通じた口コミによる優秀な若手人材の採用
- ②他部署の先輩が新入社員をサポートする



講演する鎌田克也氏

『埼玉県における働きがいのある会社調査』表彰式開催

岩堀建設工業(株)、三州製菓(株)が優秀企業として表彰される

平成二三年度第二回人事労務委員会終了後、会場を移して、GPTW (Great Place To Work) が地域版調査として日本で初めて実施した「埼玉県における働きがいのある会社」調査の表彰式が行われ、本委員会である、岩堀建設工業(株)、三州製菓(株)の二社が優秀企業としてGPTWジャパンより表彰を受けた。

なお、本表彰式には、来賓として埼玉県産業労働部雇用労働局長の斎藤修一様と埼玉新聞社代表取締役社長小川秀樹様にご出席いただきました。ご挨拶をいただきました。

◆二〇二三年版「埼玉県における働きがいのある会社調査」に是非ともご参加をご検討ください。

世界的な調査機関であるGPTWは、世界四〇カ国以上で、「働きがいのある会社」を共通の基準で調査分析し、各国の有力メディアで、働きがいの会社のランキングとして発表している。

日本版調査は二〇〇七年より開始しており、毎年日経ビジネス誌上で一〇ページを

ヨンの共有を図る「ビジョンミーティング」の開催

⑥ 表出しづらい組織の課題を把握するための組織健康診断サーベイ・人事面接の実施

⑦ 部門目標を達成した社員全員を舞台上で祝福・表彰する表彰イベント

⑧ 在籍二年以上の社員は希望部署に異動申請ができるキャリアチャレンジ制度

⑨ 勤続十年を超えた社員に一月月の休みと特別給与を支給するリフレッシュ休暇

超える特集記事が組まれる注目の調査となっている。二〇二二年より地域版調査として日本で初めて埼玉県に本社を置く企業を対象に「埼玉県における働きがいのある会社」調査を実施。

この「埼玉県における働きがいのある会社」調査は三月より調査申込みの受付を開始しておりますので、是非ともご参加をご検討ください。

なお、別途本調査に関する説明会を開催する予定です。

来賓挨拶 斎藤修一
埼玉県産業労働部雇用労働局長

来賓挨拶 小川秀樹
埼玉新聞社代表取締役社長

表彰を受ける岩堀和久岩堀建設工業(株)代表取締役

表彰を受ける斉之平隆彦三州製菓(株)専務取締役

開会挨拶をする和田彰GPTWジャパン代表



開会挨拶をする和田彰GPTWジャパン代表



来賓挨拶 斎藤修一
埼玉県産業労働部雇用労働局長



来賓挨拶 小川秀樹
埼玉新聞社代表取締役社長



表彰を受ける岩堀和久岩堀建設工業(株)代表取締役



表彰を受ける斉之平隆彦三州製菓(株)専務取締役

中部地区協

「限界が近づく日本の財政」財政・社会保障の再生をどう進めていくか?」「職務・職能・成果主義時代の人事考課」をテーマに開催

中部地区協議会が、二月二日(水)ソニックシティビル・六〇三会議室において六〇名が参加し開催された。

まず、根岸専務理事より、「日本経団連・二〇二二年版経営労働政策委員会報告」のポイントの説明が行われた。

その後、講演へ移り、第一部の講演は、「限界が近づく日本の財政―財政・社会保障の再生をどう進めていくか?」と題して、財政の研究者として現在注目を浴びている、一橋大学経済研究所准教授小黒一正氏より講演が行われた。講演のポイントは以下のとおり。

■講演のポイント

◆内閣府は、今回の五%の消費税増税でも国際公約でもある二〇二〇年の基礎的財政収支黒字化は達成できず、さらに一六%までの引上げが必要との試算を公表したが、米国の著名な学者等は、三〇%台

が必要との推計をしており、この程度の増税ではとても増加する社会保障負担を賄うことは不可能である。

◆著名な経済学者であるロゴフが主張するように、過剰な公的債務は経済成長を抑制する可能性がある。

【ロゴフ仮説】公的債務(対GDP)が九〇%を超すと、その国の一人当たりGDP成長率は平均して四%も低下するという仮説

◆現状のままでは、二〇二〇年頃に政府の借金が家計貯蓄を追い越す可能性があり、また今後三年以内にその時期が到来するという主張もある。

◆国債の国内消化は次第に難しくなり、デフレ下で金利リスクは見えないかもしれないが、いったん金利が上がると金利負担で財政は苦境に陥る可能性が高い。
◆従来から、増税ではなく経済成

長を優先する政策をとれば、税収増で財政が好転するという、主張(いわゆる「上げ潮派」)がみられる。しかし、実際に日本の名目成長率と長期金利の関係を長期的にみると、長期金利が名目成長率を上回っている場合が多く、「上げ潮派」の主張の根拠は乏しいと考えられる。

◆また、仮に経済成長で日本の公的債務を改善するとすると、今の日本の財政状況をもとにドーマーの条件を適用し試算すると、実質金利を二%上回る経済成長が必要と考えられる。したがって、経済成長だけで財政再建を図ることは極めて難しいものと考えられる。

◆社会保障の公的負担は毎年約一兆円ずつ増加し二〇一一年度には四〇兆円、二〇一五年度には四三兆円、二〇二五年度には五四兆円。高齢化ピーク時の二〇五五年度には七一兆円に増加し、二〇一一年

度と比較して、三一兆円も増加することが見込まれる。
◆この社会保障負担の膨張は、研究開発、教育等の予算を削減せざるを得ず、結果として、日本経済の成長を低下させる。
◆以上の点から、今後の財政の持続可能性を確保していくためには、増税、社会保障給付の見直し・削減が不可欠である。
◆また、今後益々大きな課題となっていく世代間格差を改善するためには、以下のような政策を検討すべきである。

- ①事前積立
あらかじめ高齢化の進展に備え、今から追加的負担を課し、その分を貯蓄(事前積立)しておくことにより、将来の負担上昇を抑制し、異時点間の負担を平準化する。
- ②世代間公平基本法の制定
社会保障予算を一般会計から完全に遮断する。その上で、日本銀行のような独立性の強い機関として「世代間公平委員会」を設置し、政治が決定する社会保障予算のマクロフレームを半ば自動的に決定し、世代間の配分の不公平感を是正する。
- ◆管理競争の導入
管理競争とは、自由競争ではなく、保険者機能の強化や加入先の選択自由化を図りつつ、政府が管理する緩やかな競争。政府の役割は、社会保険料による所得再分配、リスク調整、健全な保険市場の確

- 立などに特化し、診療報酬など価格統制権限は各保険者に分権化する。(詳細は送付済の講演資料をご参照)
- 続いて第二講に入り、「職務・職能・成果主義時代の人事考課」と題して、日本経団連事業サービス人事賞金センター長の吉田純一氏より、以下の内容について講演が行われた。(詳細は送付済の講演資料ご参照)
- 一、職務・職能・成果主義時代の人事考課
◆職務・職能・成果主義を実現する人事考課とは
◆従来の人事考課の問題点
二、人事考課の仕組みと考課基準の設定
◆考課基準設定の必要性
◆能力考課基準
①能力考課とは
②能力考課要素
③能力考課基準
④課業レベルの評価
◆業績考課
①業績(成果・実績・貢献度)評価
②業績考課の対象
③達成目標の設定
④対象となる目標例
⑤目標設定の手順
◆職務行動・態度・意欲考課
①職務行動・態度・意欲(情意)考課とは
②考課の対象
③考課段階



講演する小黒一正氏



講演をする吉田純一氏



講演風景

西部地区協議会

『日本経済の未来、事務部門の生産性向上推進策』をテーマに開催

西部地区協議会が二月一日(金)川越の丸広百貨店で会員二八名が参加して開催された。

まず、当地区協議会議長であるボッシュ(株)の押澤秀和専務取締役から開会の挨拶があり、続いて本会根岸専務理事「日本経団連・二〇一二年版経営労働政策委員会報告」のポイントについて説明があり、その後講演会に移った。

まず第一部講演として、「日本経済の将来」と題して、慶応義塾大学大学院経営管理研究科准教授小幡績氏より講演が行われた。講演のポイントは以下のとおり。(詳細は既送付済の講演資料ご参照)

■講演のポイント

◆二〇一二年の世界経済の見通しについて概説すると、欧州経済は長期停滞、米国経済は徐々に回復、そして新興国経済は地域によるバラツキが出てくるものの引き続き好調に推移するものと見込まれる。

◆日本経済は、停滞を脱すること



開会挨拶をする押澤秀和議長
(ボッシュ(株)専務取締役)

はできないものの、相対的に悪くはない。しかし、財政リスクが徐々に高まっていくものと考えられる。

◆欧州危機が懸念されているが、欧州危機は巷間言われているような財政危機ではなく、銀行危機と認識すべきである。

◆この銀行危機に対して、欧州中央銀行が資金を供給し、銀行の資金繰りを支えているが、これだけでは銀行危機から脱却はできない。「金融による付加価値の提供」、

「信用に基づく融資の実行」など、失われた銀行ビジネスへの回帰が不可欠である。

◆日本の財政については、政府負債の対GDPの高さから、破綻シミュレーションが盛んに行われているが、これは無意味。破綻するということは、新発国債の引き受け手がなくなっただけを意味する。それ以外では財政は破綻しない。

◆日本にとって最も警戒すべきは



講演する小幡 績氏

インフレである。名目利子率が上昇し、国債の時価が暴落する。このインフレにより日本の財政は破綻する可能性が高い。金融政策によりインフレ(リフレ)誘導を求める声があるがこれは最悪のシナリオである。

◆円安・インフレスパイラルは日本の終わりを意味する。原油、食糧の輸入価格が高騰し、経済活動が委縮し、財政破綻を引き起こす元凶である。

◆ではどうすればいいのか。ある意味で発想を転換する必要がある。「円高・デフレ」は世界経済の変化に日本経済が対応した結果であり、今の日本経済にとって必要なことと考えるべきである。「円高・デフレ」を変えるのではなく、これとどう付き合っていくかがポイントである。

◆日本経済の未来を考えると、「円高メリットを享受する」という発想に転換すべき。具体的には、

「円高メリットを享受する」という発想に転換すべき。具体的には、



質問する参加者

円高で資源、企業、知的財産、労働者等が安く購入・確保することができ、これにより新興国でのビジネスチャンスが広がるとともに、より効率的な生産ポートフォリオの構築が可能となるのである。

続いて第二講は、「事務部門の生産性向上推進策」業務削減による要員効率化」と題して、日本経団連事業サービス人事賃金センター長吉田純一氏より以下の内容について講演が行われた。(詳細は

南部地区協議会

『南部地区協議会が「日本経済の未来」と「経営計画と適正賃金決定」の講演を開催

南部地区協議会が二月十五日(水)午後、川口市の川口総合文化センター(リリア十一階大会議室)にて三十五名が参加し開催された。

始めに、小嶋隆善南部地区議長(株)小島鉄工所社長)は挨拶で日本経済の現状を分析された後、この会で経営側として、春季労使交渉に臨む姿勢をしっかりと確認して欲しいと述べられた。また、南部地区協議会の幹事である小原歯車工業(株)が、テレビ東京「ガイアの



開会の挨拶をする小嶋隆善議長

- 既送付済の講演資料ご参照)
- 一、事務部門の生産性向上の必要性
 - 二、要員算定の方法
 - 三、事務部門生産性向上の諸対策
 - 四、業務簡素化による事務部門要員の効率化
 - 五、課業配分表による分析
 - 六、冗員対策とその処置
 - 七、要員効率化の取組み方と維持管理

夜明け」の番組に、客からの注文に超短期で応える埼玉県の町工場として放映されるので、是非ご覧いただきたいと話された。



講演する小幡 績氏



講演する平田 武氏

次いで、「日本経団連・2012年経営労働政策委員会報告のポイント」を根岸専務理事が解説した。

その後講演に移り「日本経済の未来」と題して、慶応義塾大学大学院 経営管理研究科 准教授 小幡 績氏が講演を行った。(講演のポイントは西部地区協議会参照)

休憩後、「経営計画と適正賃金決定」と題し、日本経団連事業サ―ビス人事賃金センター 参事 平田 武氏の講演が行われた。

氏は、企業活動の目的とは、付加価値の創造であるとし、外部から原材料やサ―ビスを購入し、加工、販売することで、新たな価値を生み出す。つまり企業とは、資本と労働を組み合わせ、稼働させ、「付加価値」を生み出すためのメカニズムであると定義付けた。そこで、企業活動の目的と経営計画の重要性を説き、経営計画策定の実際を、モデル企業を事例に取り、経営分析の実際、経営計画を立てる上での考え方、経営計画の整合性のチェック、労働への分配等を「支払能力システムの使い方」の著書と計算ソフトを使い、懇切丁寧に解説した。

そして、これまでは、要員管理で人件費を調整してきたが、非正規社員の規制が強まる中、正社員の賃金制度・賞与制度を、付加価値(職務・業績・成果・貢献度)

に準拠した制度に見直すことが、喫緊の課題であると訴えた。

最後に、吉野電化工業(株)代表取

地区協議会

「日本経済の再生に向けて」TPPと構造改革の推進」等をテーマに開催

西部地区協議会(議長 根本清司(株)リケン顧問)の春季協議会が二月七日(月)、(株)リケン熊谷事業所にて約二十名が参加し開催された。

冒頭、根本議長は、「円高、欧州経済不況の影響、タイの洪水など製造業にとっては更なる逆風が続いており、特に電気関係の落ち込みは激しい。そんな折に今春の労使交渉がスタートした。各企業の状況に応じた対応をすべく、自社の置かれている実情を熟慮すべき」と開会あいさつ。

続いて本会根岸専務理事が事務局報告として、「日本経団連・二〇一二年版経営労働政策委員会報告(経労委報告)」のポイントを説明した。

その後、講演Iとして、城西大



根本清司西部地区協議会議長
(株)リケン顧問

締役社長 吉野寛治氏の謝辞並びに挨拶で南部地区協議会は閉会した。

学経済学部長の安田信之助氏が、「日本経済の再生に向けて」TPPと構造改革の推進」と題し、講演を行った。

安田学部長は、①日本経済の現状、②FTA、EPA、TPP(環太平洋経済連携協定)とは、③TPP交渉開始の背景、④TPP交渉開始への賛否、⑤日本の参加と課題と問題点などを説明。

TPPへの参加に関しては、「TPP参加は日本経済再生のひとつのきっかけには成り得る。痛みを伴う改革だが、将来へのステップと見るべき。出来るだけ早く交渉に参加し、日本に合うような交渉をすべき」と参加賛成論を解説した。また、日本の技術力に関し、「後進国に追いつかれたら一歩譲



城西大学経済学部長
安田信之助氏

ってさらに高い技術を開発し、引き離すことが肝要。技術を無理に守ろうとすると貿易摩擦が生じる。しっかりとした技術力を磨いていくことが必要で、TPPは技術力を高めるバネ・きっかけにもなる。ピンチはチャンスと考えるべき」と提言。最後に、「世界の潮流は国境を超えるグローバル社会へと流れており、日本も真の国際化を真剣に考えるべき。若い世代には早い時期からの英語などの語学学習、そして学生の内向き化などを改善し留学などで国際感覚を養うことも必要。この点でも中国、韓国などからすでに遅れを取っている。さらに、政府の役割として、国際競争力を強化するための日本の成長戦略をしっかりと立てるべき。そのためには決断と覚悟が必要」とまとめた。

続いて、講演IIとして、埼玉県行政ITアドバイザーの武城文明氏より、「今後のICTの動向とICT投資にあたっての留意事項」と題し、講演が行われた。



埼玉県行政ITアドバイザー
武城文明氏

①IT国家戦略の歴史、②これからのIT戦略と、その未来、③クラウド・コンピューティング、④情報通信社会の変化とは

二、ICT投資にあたっての留意事項では、①企業とクラウドサ―ビス、②ICT利活用と事例紹介、③ICT時代のハザードマップ、④自治体戦略と今後の展望などを説明した。

武城氏は、「共有サ―バーを利用し、コンピュータ処理をネットワーク経由でサ―ビスが受けられるクラウド・コンピューティングは、企業にとって低コストを実現し、場所をとらないという上でも増々普及していく。埼玉県には三カ所のデータセンターがあり、四月からはもう一カ所稼働する。県をはじめ、行政でも利用率が増え、全国的には各自自治体でデータセンターをつくる動きが加速している」と、クラウドの発展性を強調し、ICT時代の留意点として、「クラウドに移行する場合も、必ず入力データのバックアップ体制をとること。スマホなど、高機能携帯端末に対するウイルス対策に留意すること」などを指摘した。

今回の協議会では、TPPとICTという企業経営の観点から重要かつ直近に迫るテーマを理解するためのきっかけを提供した。

「再生日本に向けて労使がなすべきこと」テーマに

日本経団連労使フォーラム開催

日本経団連は一月二五日、二六日の両日、大手町の経団連会館で「第一一五回日本経団連労使フォーラム」を開催した。全国各地から企業経営者や人事労務担当者ら約三五〇名が参加、「再生日本に向けて労使がなすべきこと」をテーマに、グローバル競争に打ち勝つための経営戦略や人材戦略、春季労使交渉に向けての課題・対応策などを探った。

冒頭、開会あいさつと基調講演を行った米倉弘昌会長は、民主導の経済成長の実現に向けた経済界



日本経団連労使フォーラム1/26
パネルディスカッション

の取り組みを紹介するとともに、グローバル人材育成の必要性やグローバル化が加速する中での労使関係のあり方について語った。また、今次労使交渉・協議においては、企業を取り巻く環境について労使が認識を共有するとともに、競争力の強化を通じて収益を高め、成長を実現することで、より豊かな生活につなげていく観点から、建設的な議論が行われることに期待を示した。

米倉会長の基調講演に続き、大和総研理事長の武藤敏郎氏が「二〇一二年・日本経済の行方」と題して講演。武藤氏は、今年の日本経済について、二%前後の成長が見込まれるとすたうえて、①電力不足、②海外経済の下振れ、③円高の三つのリスク要因が経済成長に及ぼす影響に言及した。

続いて、日本経団連常務理事の川本裕康氏による「二〇一二年版経営労働政策委員会報告」の要点解説に続き、「危機をチャンスに変える経営」をテーマに、東日本旅客鉄道の大塚陸毅会長、日本郵船の宮原耕治会長、明治大学大学

院の野田稔教授が鼎談。「地域の特色を活かした産業の振興と、あらゆる分野でのイノベーションが必要」「新たな産業をつくること」によって「創意」を發揮し、日本を再生していくなどの考え方が示された。

一日目の最後には、連合の古賀伸明会長が、「いま労働組合に求められるもの」をテーマに講演。「働くことを軸とする安心社会」を実現するため、厚みのある中間層を基盤とした社会の構築を目指すとともに、従来の延長線上ではない新たな価値観をつくっていくことが責務であると述べた。

二日目はまず、企業の労務担当役員と産別リーダーが「今次労使交渉に臨む方針」について、それぞれ講演した。進藤孝生・新日本製鐵副社長、藤田正美・富士通副社長の二氏は、グローバル化や急速な円高の進行などの経営環境の急速な変化を踏まえ、労使の対話によって人材育成、国際競争力強化に取り組んでいきたいと説明した。一方、真中行雄・JAM会長、西原浩一郎・自動車総連会長、神津里季生・基幹労連中央執行委員長、長崎の労組リーダー三氏は、デフレ脱却には家計への成果配分が不可欠と主張したうえて、賃金のみならず人材育成や非正規労働者の処遇についても協議の対象としたい

と述べた。

続いて「高齢者活用の新たな可能性」をテーマに、水永正憲・旭化成取締役兼常務執行役員、安田洋子・高島屋執行役員総務本部副本部長兼人事部長、庄司哲也・日本電信電話取締役総務部門長をパネリストに、佐藤博樹・東京大学大学院情報学環教授のコーディネーターのもとパネルディスカッションを実施。各社の活用事例をもとに、目指すべき方向性や課題について討論した。

特別講演「世界の潮流をどうとらえるか」では、元外務審議官で日本総合研究所国際戦略研究所理事長の田中均氏が、中国をはじめ新興国の台頭により多極化する世界情勢のなか、日本の成長をアジアの成長とリンクさせるうえて、米国の関係が重要であることを説明した。

米倉会長基調講演（要旨）

□わが国ならびに世界経済の状況 国際経済情勢は不透明感が増し、歴史的な円高がわが国の輸出産業の収益を圧迫しているが、原因となる欧州の政府債務問題は終息していない。米国の景気回復は進まず、世界経済の成長を牽引してきた新興国経済も減速の兆しが見えている。

加えて、わが国は、巨額の政府

債務、ほころびを見せ始めた社会保障制度、厳しい雇用情勢など多くの困難に直面しており、戦後最大の危機を迎えているといっても過言ではない。

□民主導の経済成長の実現に向けた取り組み

わが国が難局を打開し、山積する重要課題を克服するためには、経済の牽引役である民間企業や経済界が知恵を絞り、行動を起こし、競争力を強化することによって、力強い持続的な経済成長を実現することが重要である。

□グローバル化と人材育成

これからのわが国の産業界には、国際的なビジネスにおける問題を的確に把握し積極的に対応していく力や、異なる文化や背景を持つ人たちと問題解決を図れるような高いコミュニケーション能力を持つ「グローバル人材」が必要である。

□グローバル経営と労使関係

グローバル化が進むと、オープンに議論ができる環境づくりや会社のビジョン・経営理念をグローバルに周知・共有するといった取り組みが大切になる。日本の企業の良き文化や慣行を広めながら、その国の特性や社会的な背景に十分に配慮することも、労使関係の安定・強化には欠かせない。また、企業の社会的責任を果たすことも重要である。

第25回 生き生き職場体験交流の集い

生き生き働くために ～これからの働き方のヒントを探る～

第二回「生き生き職場体験交流の集い」が一月二〇日、大宮ソニックシティにおいて参加者・関係者を合わせ合計五十四名が参加して開催された。

「生き生き」という言葉をキーワードに「働くことをあらためて見つめ直し、今後のキャリア形成を考える」場として、事例発表やディスカッションなどのプログラムに取り組み、これからの働き方のヒントを探った。

午前中は「基調講演」、三人の発表者による「事例発表」、午後からは「パネルディスカッション」、「グループディスカッション」と続く四部構成。

第一部の基調講演では、前兵庫県尼崎市で現在グンゼ(株)取締役の白井 文さんより「私のチャレンジ」全国最年少女性市長就任からの八年間を振り返って」と題して講演を頂いた。



最年少女性市長としてのご経験と共に貴重なメッセージを発信して頂いた白井 文氏による基調講演

白井さんは、航空会社の客室乗務員や人材育成コンサルタント、尼崎市議を経て、二〇〇二年に兵庫県内二人目として全国最年少の女性市長として就任、「市民派」を掲げて情報公開と市民参画を進め、二〇一〇年まで二期八年を務めた。講演では、JR福知山線脱線事故、アスベスト問題等、課題山積みの八年間の市政運営について話された。

市政運営に関しては、「女性には無理、というバッシングもある中で『多様な意見を反映する』という信念のもと、真剣に市民との接点を見つけて耳を傾け、議会でも『こにかく議論をしよう』という姿勢で臨み最初こそ敵対していったが、次第に連帯感や信頼感が生まれた」と語った。そして平成一七年のJR福知山線脱線事故に関しては、「自分の家族が事故に合ったと思って誠実に対応する」、「現場で意思決定をする」ことを念頭に対応したが、悲惨な状況の中、たくさんの人が救助に携わる中で、個人としてそして行政組織として多くのそして貴重な学びがあったと話した。

この事故から二ヶ月後、アスベスト問題が発覚した際も、脱線事故の教訓を活かしてすぐに現場（発症した方々の自宅）を訪れたが、たんたんと話す表情から悲しみの大きさや「生きたい」という切実な気持ち伝わってきた、と話した。

そしてこれら二つの問題への対応を通して改めて命の大切さに気づかされ、市民の安全・安心の確保に全力で取り組んだと話した。

そして最後に以下のように述べられ講演を締めくくられた。

た。

① 順調ではなく逆に様々な課題にぶつかるところからこそ、互いに協力・協調でき、信頼関係の構築につながる。

② 今日の自分は、昨日までの自分の結果である。そして将来の自分は今日からの自分の結果である。

③ 努力は報われないことも多いが、だからこそ努力しなければ何も始まらない。

④ どんな改革も「ひとり」が気づき行動を起こすことから始まる。そしてそのひとを助ける「その次のひとり」になることがより重要である。

第二部の事例発表では、三名の女性リーダーが、様々な立場から自身の体験談を交えて発表した。

(株)亀屋の神田知永子さんは入社六年目、二店舗での店長経験を経て、当社初めての高速道路サービスエリアへの出店であるPassar三芳店のオープニング店長に抜擢されたご経験を「今日も明日も笑顔笑顔宣言!!」と題して店長としての日々の心掛けや経験を通して学んだことを発表した。

「六年目の今、『楽しい』と思える仕事が出来ている。楽しいと思えるからこそ笑顔が出せる」と触れ、そこに至るまでの紆余曲折に関して「初めて店長に就任した頃、数々の失敗に加え、周囲の目ばかりを気にしてしまう自分がいて売上も伸び悩んだ。周囲からの助言もあり、それまでの格好つけていた自分をやめ、周囲の協力を仰ぐことで状況が変化した」と話した。

また、「楽しいと思える仕事の背景には共に働く仲間や日々接客しながら触れ合うお客様など、様々な『繋がり』がある」とし、発表タイトルにある「笑顔」の秘訣としては「尊敬する上司の役に立ちたい、売り場の人にとって楽しいと思える職場環境を作りたい、という二つの気持ちで原動力になった」と語った。

そして、「自分が笑顔でいると自然とメンバーもお客様も笑顔になる。笑顔で接すると結局は自分に返ってくるので、それが生き生き働く私の秘訣」と話し事例発表を終了した。

(株)コーセーの足立 愛さんは、入社から一周年間の基礎研究所と品質管理部門での業務内容、並びに二回の産休・育児を取りながらの仕事と家庭の両立のご経験を「おかげさまで元気です！仕事と育児・Aさんのケース」と題して発表。復職後の育児との両立に関しては、時間的な制限や突発的な事態の発生等がある中で「上司の具体的な支援やアドバイス」「同僚の気遣い」「夫との協力体制」「両親のサポート」を受けつつ試行錯誤の中からコツをつかんだとし、そのコツとして以下の5つを発表した。

① 情報は抱えず人と共有する ② 問題はその場で解決する ③ 手掛かりを残し「仕事の見える化」を図る ④ 勇気を持って頼る ⑤ 家庭のことを話すこと発表した。そして最後に「これから子供は成長し、職場も自分も変化する。心配していたらキリがないが、『楽しい』と思いつついれば、どんなことでもクリアできる」と信じている。そして周囲の人の支えがあったからこそこれまでやってこれたのだから、いつか恩返しをしたい」と述べ、「子供を抱えて働く、ということは特別なことではない。『あんな感じなら出来るかも』というモデルケースになりたい」とまとめた。

ユナイテッド・シネマ(株)の内橋洋美さんは、社内では女性一人目の支配人として劇場運営に携わり、その後一人でゼロから人材開発の立ち上げを任せられるなど、一〇年間の社会人経験で多くのチャンスに出会ったご経験を「やりたいのか?」「やりたくないのか?」「ただ、それだけです」と題して発表。「やりたいことか、どうか?」という問いに忠実に行動して

きたこれまでを振り返りながら、やりたいことを軸に考え、行動することで成長してきた自身の経験談について語った。そしてやりたいことを軸にして得られたこととして以下のように語った、①物事を違う角度から捉え、かつ行動範囲も広がるので、色々なことが気になり出して刺激になる。②やりたいことを軸にすればプロセスが柔軟になり、ダメーჯを受けてもしぶとくなれる。③ネガティブよりもポジティブになれることが大きい。最後にまとめとして「何事も行動してみる、『とりあえず、やってみる』ことが大切。行動することで『出来ないこと』がわかるだけでも丸儲け。仕事以外のことでもどんなに小さなことでもやりたいことからやってみては」と語り事例発表を終了した。



多業種で活躍する女性から、生き生き働くことに関する体験談をこ披露頂いた事例発表

共通の質問として「思い通りにいかずに苦労した時の乗り越え方」「周囲とのコミュニケーションの取り方」「チームとして質の高い仕事を生み出すための取組」「肩書き」がつくことによる変化」「目標の定め方やモチベーション維持の秘訣」「仕事とプライベートのバランスの秘訣」「タイムマネジメントの秘訣」これからの自分の目指す姿などについて討議し、参加者にとっても身近なリフレッシュ方法などについても意見が出された。そして最後に、参加者に向けたメッセージとしてまず神田さんからは「仕事は確かに楽しいばかりではなく、しんどいな、と感じることもあるが、でも楽しいことも同じくらいある。一日のほとんどを仕事に費やしているが、その中で少しでも『やりがい』を感じたり楽しいという感情が湧くような仕事が出来れば、少し気持ちに余裕を持てると思う。何でもすぐに結果は出ないが、じっくり実を結ぶまで、『快適な仕事の出来る環境を自分の力で作る』くらいの勢いで、そのために『笑顔』をフル活用してみては」



「生き生き働くためには?」「仕事とプライベートの調和に関して」をテーマに、日々の取組みに関して掘り下げたパネルディスカッション

との意見が述べられた。続いて足立さんからは「一口に両立といっても、各人各様の事情があって『これが秘訣』という決定版はないと思う。諸先輩方も、もがいてもがいて自分のスタイルを作っていたはず。仕事も育児も長丁場なので、緩急つけて気負わずいくのが長続きするのではないか」とのお話があった。そして最後に内橋さんから「これまでの仕事経験を振り返った時『自分が納得して決めたかどうか』『自分が納得しているかどうか』はとても重要だと思う。人と比較するのではなく、自分自身のライフステージに応じて柔軟にキャリアを作っていくには、楽しい毎日になるような気がする」と述べ、メッセージを締めくくられた。



「生き生き働き、生き生き暮らすこと」をテーマに、明日からの自身の取組みに関してグループごとにディスカッションを行った

「長期的なビジョンを持つ」「情報のやり取り、発信、受信、共有を意識して行う」「職場や家庭だけでなく複数の世界を持つことで、バランスをとったり刺激を受けたりすることが大切」などの意見が出された。

終了後のアンケートでは参加者から「身近な事例を聞くことが出来て、自分への良い刺激となりました。まだまだ自分自身の意識改革を頑張らないと!」私もこうしようという「ヒント」や、そう考えればいいのかという「解決策」をもらうことが出来た」「時間の使い方、職場の仲間、プライベートの人間関係作りについて、自分の視点を変える良い機会になりました」「色々な考え方に触れて、自分のこれからの見つけ直す良い機会になりました」「明日から自分の実行出来ることはほとんどんやっという意欲が湧いた」「身近にこうなりたい!と思えるケースがいらないので、自分の働き方を考える良い機会になった」「同じ悩みを持つていることがわかり、一人じゃないと分かったことも心強い」などの意見が出された。

参加者にとって、働き方・暮らし方の身近なヒント、また将来役立つヒントをそれぞれに感じ取り、明日から取組んでいく目標と、チャレンジへの意欲、また、生き生き働くための活力を得る場となったようだ。

基調講演

「私のチャレンジ!全国最年少女性性市長就任からの八年間を振り返って」

前 尼崎市長(現グンゼ(株)取締役)

白井 文氏

事例と発表者

①「今日も明日も笑顔笑顔宣言!!」

(株)亀屋 営業部第二グループ長兼 Pa sar 三芳店長 神田知永子氏
②「おかげさまで元気です!仕事と育児・Aさんのケース」
(株)コーシー 狭山工場検査課原料バルク検査係 リーダー 足立 愛氏

③「やりたいのか?」や「やりたくないのか?」ただ、それだけです」
ユニイテッド・シネマ(株) 人事総務部 人材開発担当 マネージャー 内橋 洋美氏

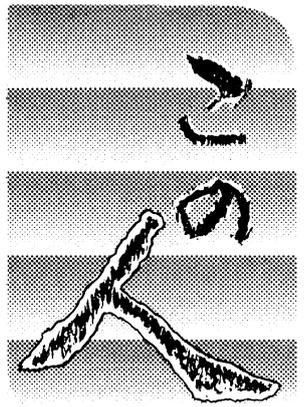
集会スタッフ

《コーディネーター》
埼玉県経営者協会 町田 恭子
《スタッフ》
埼玉県経営者協会 宮田 信久
吉田ひとみ (敬称略)

参加会社・組織

アイジャパン(株)①、アイル・コーポレーション(株)②・(株)飯野製作所①、(株)イビサ②、AGS(株)②、(株)NTT東日本一埼玉③、(株)亀屋②、川口信用金庫②、クリンシステム(株)①、社会福祉法人単人会鴻巣まきば園①、独立行政法人国立女性教育会館①、(株)コーシー狭山事業所④、(株)埼玉りそな銀行①、サイボー(株)①、坂戸ガス(株)①、三協食品工業(株)①、三州製菓(株)①、昭和工業(株)②、(株)鈴木鶏卵GPセンター②、大東ガス(株)①、(株)大洋社印刷所①、東彩ガス(株)③、(株)東芝深谷事業所①、日本通運(株)①、日本フェルト(株)埼玉工場①、(株)ハーベス①、(株)パレスエンタープライズパレスホテル大宮①、フジオックス(株)②、北辰図書(株)①、(株)松本商会(株)ラスコ②

①内は、参加者数。合計五一名。

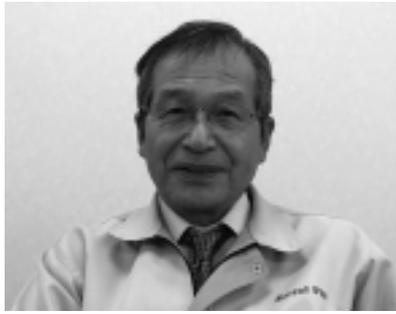


日本メタルガスケツト株式会社 代表取締役 会長 植田耕作氏

この人は、探究心旺盛なアイデアマン。思い込んだらとことんチャレンジし、目標達成のためには努力を惜しまない人。

昭和十三年九月一日、香川県生まれの七三歳。三一年香川県立高松工業高校機械科を卒業。上京してエンジンのガスケツトを製造している日本リークレス工業(株)に入社、浦和工場に勤務。三七年、在職しながら工学院大学専修学校(夜学)を卒業。五五年同社を退職、独立し四二歳の時に日本メタルガスケツト(株)を設立、現会長。世界初のメタルガスケツトを考案して世界に普及させる。

野球少年からエンジニアへ 香川県の実家は農家。六人兄弟の下から二番目で大学進学は経済的に難しかった。高校時代は野球部を一年の一学期怪我で退部。その後、ハンドボール部で活躍、エースとしてインターハイまで出場したが、野球好きの植田さんは、野球部のある会社を選び、日本リークレス工業(株)



植田耕作代表取締役会長

浦和工場(現埼玉事業所)に就職。終業後も一人で夜中まで黙々と野球の練習を二年間続け、三年目に準エースとして天皇杯と国体に出場まで導いた。

幼いころから運動が大好きで、体力には自信があったが、二十代半ば

で結核を患い、初めての入院生活を経験した。仕事面でも生産技術担当として自社製品の改良や開発に没頭していた植田さんは、入院中、「今後は今までの様に体力競争は出来ないと実感。何かに守られなければ競争に勝てない」と感じ、製品が守られるのは特許ではないかと考え、特許に関する専門書や参考書などを読み独学で必死に勉強。「これからの世の中は特許が有れば優位に展開出来る」と思い、その後は出願申請を実行することとなる。

パイオニアへの道 自動車や二輪車のエンジン性能が向上し軽量化・高出力化していく中で、「既存ガスケツトは今のままではエンジンの進化に対応できなくなるのでは」という疑問を抱いていた。そこで独自にいろいろな材質や形状でガスケツトを試作し、当時自分が乗っていた車に組み込んで、その可能性を探った。金属製ガスケツトの発明は四〇歳の時。

そして、自分の車で手ごたえをつかむとレイスをやっている友人に相談、その関係からメーカーのレイス仲間と連携しながら研究開発を行いテストを繰り返した。メタルガスケツトの性能や将来性には自信を持ったが、勤め先にはあまり認めてもらえなかった。

そこで昭和五五年に独立し、日本メタルガスケツト(株)を設立、一般自動車や二輪車向けに金属製ガスケツトの開発・製造を手掛けていくことになる。

当時のガスケツトのほとんどはアスベスト(石綿)などのソフトな素材で、金属製は画期的ではあったが実績が無いので不安があっ

た。しかし、デイトナ耐久レースや鈴鹿八時間耐久レースで当社の金属製ガスケツトを装着したマシンが立て続けに優勝、その性能が一躍注目を浴びるようになった。

さらにバイクのエンジンはツインカム、四バルブ時代へ、そしてターボが採用されるなど高出力化が加速し、従来の材質では対応できなくなった。金属製ならば高熱に耐える上にカーボンよりも単価が安くできる。また、アスベストが肺がんの原因になることが報告され、環境面でもアスベストに変わる材質が求められるようになった。

金属製ガスケツトは性能と価格、環境面でも時代の波に乗ったこともあり、国内での受注量は急速に増加、また、特許申請を世界中に発信したところ全てが通り、ドイツからは特許技術契約が舞い込んだ。さらにフランスフルト自動車ショー出展を契機に、ヨーロッパ中に実力が一気に広まり、現在ではヨーロッパの約六割で日本メタルガスケツトの製品が使われている。

植田さんは「金属製ガスケツトのパイオニア」として業界で一目置かれる存在となった。「努力する者は希望を語り、怠る者は不満を語る」作家であり詩人でもある井上靖氏の言葉。植田さんの座右の銘である。技術を向上させるためには、常に日々の努力が必要で、楽したら儲からない。何事にも通じる言葉で自分自身肝に銘じているという。

ゼロからスタートした会社がこのまで発展した背景には、従業員のがんばりが欠かせなかった。「優れた商品の開発には人材力が何

よりも重要だ」という信念を持っていた植田さんは、何事にもあきらめずにチャレンジすることを従業員教育として徹底した。「自らの考えやアイデアは全てオープンに後継者に伝える。自分はさらに一歩先に進む努力をすれば技術はさらに進歩する」と、座右の銘を実践している。これは、仕事だけではなく、一番の趣味であるゴルフ、そして、健康管理面でも心掛けている。

七三歳でエージシューター達成 植田さんが野球の次に打ち込んだスポーツはゴルフ。三七歳の時に始め、五一歳でシングルに。好きで続けていたゴルフだったが、六四歳の時、前立腺がんを発病し、治療のため中断を余儀なくされる。負けず嫌いの植田さんは療養中も、「退院したらさらに上を目指す」と心に誓い、素振り用バットやバッテリー練習機、自作バッテリーなどのアイデアを巡らせながらリハビリしていたという。退院後、更なる練習を重ね、片手シングルを目指す。現在は二つのコースハンデが四と六。クラブシニアアチャンピオン八回、クラブグラントシニアアチャンピオン四回を誇る。そして、平成二三年十月三十日、森林公園ゴルフ倶楽部の競技大会で、アウト三六、イン三七、トータル七三のスコアで栄えある「エージシューター」を達成した。体力維持も兼ね、毎日、バッテリー練習一六〇回、素振り一〇〇回、腹筋一〇〇回、スクワット五〇回以上は欠かさないと。まさに努力の人である。

マイブームは健康! 大病を経験した植田さんが今一番気にしていることは健康。今までの自分は周囲の人のサポートによって助けられたので、これからは、健康器具のアイデアも含め、ハード、ソフト両面で高齢者の健康をサポートできるかが自分への命題と課す。「そろそろ本業は息子の社長に任せ、自分はさらに新しい事に挑戦したい」と言う。この人のチャレンジ精神は衰えを知らない。

家族は五人で、妻と子供三人。長男は同社工場長、次男が社長。

将来必ず対応出来ない時代が来ることを予測

アスベスト製品から金属製品にするために独立

一九八五年「夢を実現するために独立する」
当時二輪メーカーはエンジンパワー競争を展開しており、次々と新機構を投入していました。しかも空冷エンジンが主力でした。

小型、軽量化、当然高圧、高熱で熱変形も振動振幅も大きくなり、既存のアスベストを主材としたソフトガasket製品では対応に限界がきており各社新製品開発に苦勞していました。

弊社は会社が出来たばかりで、名前も売れていないため売込みに行きませんが相手にされません。そこで、レーシング業界は更に過酷な条件でテストしているし、必ず困っている筈だと旧知のチュウナー会社を訊ねますと、レースを間近に控えて頭を抱えていました。勿論、最初から当てにされませんが、駄目で元々と試作をさせて戴きました。レースまでの時間が無いので、本命の製品と弊社の製品を並行で

比較テストをしてくれました。結果、テストで優位性が証明され、最初の製品でレース本番に採用されることになりました。

そのレースは、デイトナ耐久レースでした。結果は、すべての関係者の努力で優勝することが出来たのです。弊社の協力した部分は少でしたが相手にも喜ばれ非常に感激しました。三ヶ月後の鈴鹿八時間耐久レースでも優勝が出来て性能が証明され、メーカーからこのエンジンを土台に改良した次期量産モデル採用のお話を頂き、幸先良いスタートとなりました。

このような順調な展開でスタートを切り毎年一社ずつ採用が増え急速に成長しました。当時二輪車生産は季節性があつたため、年間生産が安定している四輪車メーカーを攻略する計画を立て、ソフトガasket使用で苦勞し、新技術に興味を持っている会社をターゲットにしました。四輪では実績の無い弊社のPRに半信半疑の対応でしたが、カーボン製よりもコスト的な魅力もあり、試すことになりました。新開発のV型エンジンの片バンクでテストされた

日本メタルガasket(株)

技術供与しました。

この日本での実績を持つ海外(欧州)メーカーに商社を通し提携先を模索、数社からのオファーがありました。内容が良く余り大きくない会社を選びました。その会社は急速にシアアを増やし始め脅威に思つた最大手の会社は一年後にその会社を買収しました。米国においてもこのようなことが起り、メタルガasketは世界に普及していききました。

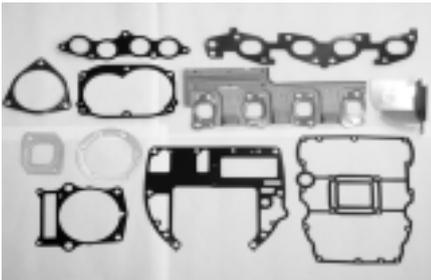
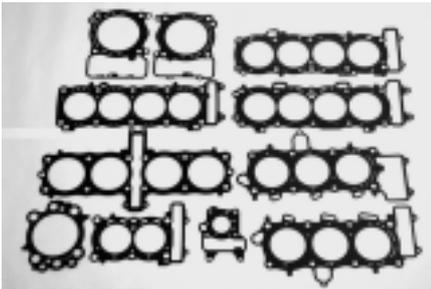
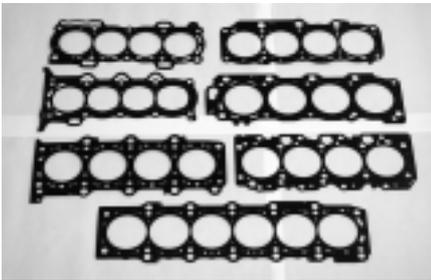
「世界の流れ」

時代と共に二輪メーカーも四輪メーカーも必要のあるところで生産、販売をするようになり、特に二輪は早くから国内開発、海外生産が主流となり、海外拠点が無いメーカーは国内での開発にも参加できなくなりました。

ガasketは単価も安く日本企業単独での進出は難しく、合弁で進出することになります。進出先としては、需要の多い国から検討しました。現在合弁が四ヶ国に、単独は二ヶ国に進出していますが、見通しが付きかけたタイは昨年十月の水害で、計画から半年以上遅れる誤算となり、その間本社で赤字生産して繋ぎました。

このように、世界中で何かが起こると影響する時代になって来た現在大きな流れとしては環境問題で石化燃料から電気動力に変わってきています。この現象は自動車産業構造が変わることになり、我々にとっては大問題ではありますが避けて通れない問題でもあり、次の手を準備中です。それまでの期間をどう読むかで展開が変わってきます。

現在二、三の新企画を計画進行中ですが時間との競争と予測しています。



管理 事務棟

自動車用ヘッドガasket

2輪用ヘッドガasket

各種ガasket

More For You
もっと、街・暮らし・笑顔のために

60th
Anniversary

武蔵野銀行は、おかげさまで創業60周年。

武蔵野銀行



埼玉県のマスコット「コバトン」

新しいオリティへ、新しいスピードで。



埼玉りそな銀行

RESONA

<http://www.resona-gr.co.jp/saitamaresona/>

北部 東京化成工業(株)

イノベーションを下支えし科学の進歩と発展に貢献する企業

東京化成工業は、今から約一二〇年前の明治二十七年、和漢薬の卸業として創業した「浅川商店」が前身の歴史ある老舗企業。第二次世界大戦中の疎開令により一時解散したが、戦後いち早く自社生産にこだわる試薬メーカーとして昭和二十一年に再出発した。

試薬を一言で言い表すのは難しいが、医薬品をはじめ、食品、電気製品、繊維、分析環境問題の解決など、さまざまな試験や基礎研究、製品開発を支える実験用化学薬品を言い、科学技術の進歩・発展には無くてはならないもの、

いわば縁の下の力持ちの役目を果たす。

当社の強みは、自社による研究開発から製造、販売までの一貫体制と技術応用により独自のものに作り上げていく技術力と即時対応力で、有機試薬の分野ではトップ企業である。新製品は年間一、〇〇〇種類を開発し、今までに二、〇〇〇品目を世の中に供給している。

今や試薬に止まらず試薬から派生した化成品や医薬品開発の糖鎖など、受託生産にも力を入れている。

深谷工場は、昭和四十一年に試薬の製造を目的として操業を開始した当社の主力工場。製造部門と技術研究所を併設し、王子や戸田の研究所と連



取材に対応していただいた牛来和彦執行役員(深谷工場長(右))と寺館賢治(深谷工場副工場長(左))



深谷工場入口・事務所棟

| DATA | |
|------|---------------------------------------|
| 会社名 | 東京化成工業株式会社 |
| 所在地 | 本社 東京都中央区日本橋本町4-10-2 深谷工場 深谷市榎合725 |
| 電話 | 048-571-1107 |
| FAX | 048-572-3859 |
| 代表者 | 代表取締役社長 浅川誠一郎 |
| 創業 | 明治27年 |
| 設立 | 大正11年 |
| 資本金 | 5,800万円 |
| 従業員数 | 182名(深谷工場) |
| 事業内容 | 有機試薬およびファイン&スペシャリティケミカルの製造販売 |
| URL | http://www.tokyokasei.co.jp |

携しながら、少量多品種要望への対応と、大量生産というある意味矛盾した課題を克服することに重点をおいている。課題を解決するためには、技術力・現場力が大きなウェイトを占め、取材に応じた牛来和彦執行役員(深谷工場長)、「技術と製造が一体となつてものをつくりあげていくことが重要。また、新しい製品づくりへの迅速な対応も欠かせない。当社の技術はすべて手作りで地道に一つずつ改良を重ねることで他社にまねのできない手法に育てあげている」と、ナンバーワンよりもオンリーワンを目指す意気込みを語った。昨今、グローバル化という言葉がなじんで来ているが、東京化成工業は早くからグローバル展開を着実に進め、四〇年以上前に香港、台湾に進出。その後、米国、ベルギー、中国、ドイツ、イギリス、インドに拠点を開設。基本的な配置はほぼ完了し、今後の重点は、決して真似のできない技術力を武器に、さらなる自身の充実を図っていく。

中部 もしもん(株)

「繋がり」は永遠である

「繋がり」「癒し」「笑い」は人間的な生活を送るうえで必要不可欠。「楽しくなければ人生はつまらない」と語るのは、もしもん(株)の栗原志功社長(写真)。二四歳の時に携帯電話の販売を単独で始め、現在四〇歳。人柄も発想もユニークな若手経営者である。人を笑わせるアイデアはいくらでも出てくるという。

もしもん(株)は平成十年設立、携帯電話ショップ「もしもんモンキー」を埼玉県中心に全国で五〇店舗展開し、さるのキャラクターもしもんくんを前面に出し、独創的な店舗名、店内ディスプレイ、店員の制



取締役CEO 栗原志功代表

服などに趣向を凝らし「面白そうなケータイ屋さん」として注目を集めている。社長単独で始めた事業だったが、現在では従業員二〇〇名を超え、携帯電話販売のほかに通信費に関するコンサルティングや人材派遣、介護サービス事業など、幅広い事業展開を図る企業にまで成長した。

栗原社長は今年の年頭あいさつで、「この会社で働けて良かった。本当に幸せだなあと全員に感じてもらいたい」と自身も奮い立たせる目標を掲げ、行動指針は「マニアックなお客さん。とことんお客様の気持ちを考えた行動



営業本部(上尾市)の事務所入口

| DATA | |
|------|------------------------------------|
| 会社名 | もしもん株式会社 |
| 所在地 | 本社 熊谷市新堀817 営業本部 上尾市緑丘3-5-28 2階 |
| 電話 | 048-779-6555 |
| FAX | 048-779-6222 |
| 東京本部 | 東京都中央区銀座1-20-17 押谷ビル8階 |
| 代表者 | 代表取締役CEO 栗原志功 |
| 設立 | 平成10年 |
| 資本金 | 31,300万円 |
| 従業員数 | 213名 |
| 売上高 | 80億円 |
| 事業内容 | 携帯電話販売、通信費削減コンサルタント、人材派遣、介護サービス事業 |
| URL | http://www.mosimon.co.jp |

をとることが大切だということ。さらに、従業員には、「それぞれの『思い』や『らしさ』」などを明確に打ち出し、個性を発揮してほしい」とも言う。そして、繋がりを確認する上で一番大事な言葉は「ありがとう」。人に対し素直に「ありがとう」が言えれば自分自身も成長できる。

社長はユニークでもあるが努力家でもある。高卒の社長は、大学へのあこがれも強かった。会社が順調に軌道に乗ってきた頃大学への思いは強くなった。三〇歳を過ぎてから社長業の傍ら、七年かけて青山学院大学を卒業、さらに上を目指し慶応大学大学院に合格、今年の四月から通学するという。受験勉強は仕事が終わってから自宅近くのファミレスで午前三時頃まで毎日続けた。人とは楽しく接するが、人知れず並々ならぬ努力をしている。

会社の未来について、「一〇〇年後も楽しくやってほしい」と微笑んだ。

南部 (株)ティール・ケー

第三の創業を宣言する

株式会社ティール・ケーは、現在エクステリア製品の開発、設計、製造、販売を事業内容とし、生産工場は、川口、茨城、七郷、大利根、滋賀および、社員百二十名の企業である。

その沿革は1957年、故高橋昭嗣社長が川口市元郷に高橋製作所を興したことに始まる。早くも59年には、資本金八百万円にて、高橋軽工業を設立し、家庭用金物製品を販売した。その後70年には、本社を川口市立野に移転し、建材部を設け、外柵他建築金物製品を販売。73年に資本金を二千万円に増資、工場の新設、設備の充実を図るも、85年に大きな転機が訪れる。それは、東洋エクステリア(株)との

業務提携で、当社の五十二%の株式を売却し、営業権・開発権を譲渡するというまさに根幹にかかわる事であった。翌年、TOEXブランドにて出荷開始、そのような中、92年、高橋保央現社長が代表取締役に就任、三年後に株式を五十二%から四十七%に買戻し、第一回QCサークル発表会、大利根工場新設、ISO9001承認取得、屋久島での社員研修、標準化サークル発表大会等々、あらゆる改善、教育を断行し、02年、東洋エクステリア(株)より全株を買戻した。

来る四月七日に高橋社長は、社員に向けてある話をする。それは、「二十二歳で入社した時、工場から工場へ、家業から企業へと変えたい。先代社長のTOEX資本を入れ

たことは、企業の永続性の観点から正しかった。また、欠品・クレームだらけの生産から、5Sの導入、毎日のようにレイアウトの変更等々、改革の連続であった。92年に三十三歳で二代目を継承し、今年で二十年たった。我武者羅に、そして、社員にも無理を

言いながら会社変革を夢見て自分勝手な経営をしていた三十代。何かが違うと感じながらも本来の経営者・企業像を求めて足掻いていた四十代。五十歳にして「社是・社訓・理念」を作成することにより、改めて企業も生き物であり、預かっていたにすぎない、役割をいただいている大きさに重責を痛感している。その社是が、謙虚・素直・正直。また、社訓が、一、約束・時間・ルールを守る人づくり。二、自然の恩恵に感謝できる社員づくり。一、常に時代に合った会社づくりである。そして、「真の人格者・真の経営者」を目指し、創業の原点に経り返り、「人造り・会社造り」に邁進するという第三創業宣言である。

通信事業の一翼を担う

西部 通信興業(株)

通信興業株式会社の設立は、昭和二十二年と今から65年前の戦後間もない時期であり、通信工業ではなく、通信興業としたことに、これからの日本の通信事業の一翼を担うという強い意志が、祖父(初代社長)に感じられる。石橋栄子現社長は話された。

そして、当社は創業以来、情報通信用ケーブルメーカーとして、お客様に喜んでいただける製品を絶えず提供するという経営理念のもと、最高の品質・納期・サービスの提供を目標に、信頼関係を積み重ねてきた。具体的には、お客様のニーズに合わせて、多品種、少量、短納期で、対応してきた。当時、日本電信電話公社納

入メーカーとして礎を築きつつ、通信の自由化、情報通信の高速化・大容量化の流れとともに、昭和六十二年光ファイバーケーブルの製造・販売を行い、平成二年には、他社に先駆けて、10Gbps対応UTPケーブル「TSUNET」の製造・販売を開始し、さらに、平成三年には、UTPケーブルのコネクタ付モジュラ

コードの製造・販売を始めた。このように、ケーブルの高性能化に伴う新規格対応製品を開発・製造し、10メガから始まった製品は、10ギガの伝送速度をカバーするまでになっている。一方、独自規格製品の開発にも取り組む。平成十九年には、データセンターや企業内LAN

Nでの高密度実装に適したコネクタ付細径モジュラコード「TSUNET-EX S-1coreV1-1MP」の製造・販売、その後、上位性能品、フロア配線用ケーブルにも細径製品を開発した。これが多くの顧客に広く採用され、他メーカーの新製品ラインアップにも大きな影響を与え、細径ケーブル市場が確立された。

また、製品の提供だけに留まらず、平成十一年「TSUKOニューズレター」を創刊し、激しく変化する情報通信市場の規格動向、施工情報、製品情報などの「情報」も届けている。

今後も石橋社長は、多様化する顧客のニーズを汲み取った製品を提供し続けることが、事業の継続につながることを考えており、この高度情報化社会の発展を支えて、真に豊かな人間の生活の一助となり、また、創業以来埼玉県川越市の地で製造し続けているこの事業を通して、地域社会に貢献していきたいと語った。



| DATA | |
|------|------------------------------|
| 会社名 | 株式会社ティール・ケー |
| 本社 | 川口市戸塚2-7-1 サニーヒルズ102 |
| 代表者 | 代表取締役 高橋保央 |
| 創立 | 1957年4月 |
| 資本金 | 2,000万円 |
| 事業内容 | エクステリア製品の開発、設計、製造、販売 |
| 主得意先 | (株)LIXIL、(株)パツファロー、(株)アンビジャス |



| DATA | |
|------|----------------------------------|
| 会社名 | 通信興業株式会社 |
| 本社 | 川越市の場1735-2 |
| 代表者 | 代表取締役社長 石橋栄子 |
| 設立 | 1947年7月4日 |
| 資本金 | 16,000万円 |
| 事業内容 | 電線・ケーブル、光ファイバーケーブルの製造、コネクタ加工及び販売 |

インターンシップ成果報告会

平成二十三年度大学生インターンシップ推進事業の成果報告会を十二月十四日(水)午後、ソニックスティビル九〇六研修室にて開催し、体験した学生、受入先の経営者・担当者、送り出し側の大学関係者ら六十二名が出席した。

この会は、昨年度から埼玉県が事業化し、本会が実施団体として活動している「埼玉県大学生インターンシップ推進事業」の成果と課題をふりかえり、今後の望ましいインターンシップ活動のありかたを考える会として、埼玉県産業労働部就業支援課と本会が共催し開催した。

会でははじめに、近藤繁樹埼玉県産業労働部就業支援課副課長が、「大学生の就職内定率は依然として厳しい状況。これは、経済情勢による影響も大きいが、学生の職業意識が十分でない部分にも原因がある。インターンシップは職業意識を高めるためにも有効で、学生のキャリア形成のためにも就業体験は重要だと考えている」と開会あいさつ。その後、「平成二十三年度インターンシップ実施結果」と題して宮田信久本会事務局次長兼調査部長（インターンシップ事

務局統括）が今年度夏季インターンシップの実施結果を報告した。

報告会時点の実施学生は一九〇名、登録受入先数は一一四先で、受入先の業種・規模別登録状況、応募から実施の業種別内訳などを報告、特に、「毎年応募が公務や金融・証券、そして大手企業に偏る傾向

があり、せっかく受入先登録いただいても、全く応募がない先が約半数にあたる」と指摘。応募の無い優良中小企業の紹介など、大学側に対し学生の指導をお願いした。その後、受入先の報告、大学の報告、実施学生とのパネルディスカッションが行われた。

◆成果報告の部・報告要旨◆

□受入先の部□

①鴻巣市役所 総務部 主幹

飯塚孝夫 氏

●今年度夏季受入学生…八名

●受入側の実施効果

- ・市民目線、若者目線での行政に対する意見の取得
- ・職員のOJT能力の向上
- ・将来の職員募集のPR など

●問題点・改善点

- ・受入部署が限定化する（窓口業務は個人情報保護の関係で除

外）

・受入時期も固定化している

●学生に対するメッセージ

- ・過去の実習生から二人採用している。我慢強く、何かを達成する挑戦意欲のある学生を採用したい。
- ・市役所業務は想像以上に忙しく厳しいことを心得てほしい。
- ・採用に関して、理系技術職は応募が少なく、文系に比べ有利。

②小原歯車工業(株) 総務部部长

小原哲司 氏

●会社概要…川口市、昭和十年創業、社員八九名、KHK標準歯車、オーダー歯車の製造販売

- 今年度夏季受入大学生…四名
ほか高専、高校生で二名つつ
- インターンシップ受入の目的
・社会貢献の一つ
- ・自社への理解を深めるきっかけ
- ・指導による社員の管理能力向上
- ・ものづくりの楽しさ理解 など

●反省点・問題点

- ・節電のため受入制限を行った
- ・仕事状況により手待ち時間が発生した
- ・学生によって意識の差を感じた
- ・例えば、単位取得目的の学生と本人の意思で就活の一部として

捉える学生とは差があった

□大学の部□

①埼玉県立大学 学生・就職支援担当課長 川端素子 氏

●実習学生…延べ七七名（内本事業でマッチングは七名）

- 実施内容…健康行動科学専攻の三年生が前期必修授業として夏季に実施
- 実習による主な成果
・学生生活では得られない気づきと発見がある
- ・コミュニケーション力や行動力を高め、知識を深めるための意欲・モチベーションの向上につながる
- ・最終的には就業観が形成できる

●課題

- ・インターンシップの有効性はわかってはいるが、国家試験取得スケジュールの関係で、大多数の学科では実施できない
- ②埼玉工業大学 就職課 齋藤 清 氏
- 実習学生…二八名（内本事業でマッチングは八名）
- 事前研修…二年次から事前支援講座を開講し、心構えや書類の書き方、業界研究セミナー、ビジネスマナーなどの研修を実施している
- 実習による主な成果
・体験し、やり遂げた達成感が就活に対する自信につながる

- ・コミュニケーション能力が向上した
- ・学生自身が「何をすべきか」自覚するようになった

●問題点と課題

- ・地域性もあり、通勤範囲の受入先が少なく、遠方の場合交通費などの経済的負担が大きい
- ・学生の意識が低く、参加者が少ない
- ・学生自身で企業探しができない

◆パネルディスカッション要旨◆

テーマ「学生の視点で今年度インターンシップ実習から見えてきた成果と課題」

【パネリスト】（ ）内は実習先

- ①埼玉大学 大学院 理工学研究科 一年 浅見哲也 氏
- ②女子栄養大学 栄養学部 実践栄養学科 三年
- ③日本工業大学 工学部 電気電子工学科 三年 中村皓俊 氏（関東分岐器）

【司会・進行】

- 埼玉県経営者協会 事務局次長兼調査部長 宮田信久

●インターンシップを体験して得られた成果と自身に関して見えてきた課題や反省点

埼玉大学 浅見哲也 氏

〔成果〕

- 一、職員の方からのアドバイスやちょっとした会話がとても参考となった。
- 二、コミュニケーション力を高める良いきっかけとなった。

〔課題〕

- 一、公務員の技術職は想像したよ

り多能工化しており、専門性だけでは仕事をごなせないことがわかった。

二、エントリーシート記入に苦手意識があり、今後の就活のためにはレベルアップが必須と感じた。

女子栄養大学 馬場由佳 氏

〔成果〕

- 一、仕事を選ぶ際は業種や規模、待遇面だけではなく、働く職場の環境(人間関係も含めて)が大切だと実感した。

二、学生と社会人との違い、アルバイトと就職との違いを体験することができた。

〔課題〕

- 一、自己都合で、期間は一週間としてしまったが、もう少し長期体験すればもっと学べた。

二、積極的な笑顔での話しかけがとても大切だとわかり、今後の生活に実践していきたい。

日本工業大学 中村皓俊 氏

〔成果〕

- 一、実際の職場で人(社員の方)

やもの(機械や器具)などに触れることができ勉強になった。

二、社員との会話により、コミュニケーション力が向上した。

〔課題〕

- 一、あいさつの大切さを痛感した。

二、インターンシップ参加は手続が面倒だったり、必要性がわからず足踏みしていた。自身の問題もあるが、大学の説明やアピールも少ないと思った。

パネルディスカッション後、会場

から学生に対し、「外国語を学び、もっと知識の幅を広げるべき」「企業は自社の強みでビジネスしている。個人も自分の強みを認識し、それを仕事に活かすべき」「公務員志望の学生もインターンシップでも良いから一度は民間を体験してほしい」などのアドバイスを頂戴した。

最後に、根岸茂文本会専務理事が、学生向けに「働くということとは？」をテーマにまとめた意義や今後へのヒントとなるレシビを紹介し、今年度の成果報告会は閉会した。



会場の様子



受入先発表の様子
飯塚孝夫氏
鴻巣市役所 総務部 主幹



会場の様子



実習学生とのパネルディスカッション

企業経営動向調査（12年1月実施）調査結果

調査概要

| | | | |
|---------|-------|-----------------|-----|
| ○調査対象 | 650社 | ○資本金別（未記入2社） | |
| 有効回答数 | 173社 | • 5000万円以下 | 71社 |
| 回収率 | 26.6% | • 5000万円超～1億円以下 | 44社 |
| ○業種内訳 | | • 1億円超～3億円以下 | 16社 |
| • 内製造業 | 85社 | • 3億円超 | 42社 |
| • 内非製造業 | 88社 | | |

企業経営動向調査結果

I. 景況判断

| 1. 国内景気 DI （「上昇」－「下降」） | | 11年10月調査 | 12年1月調査 | |
|---------------------------|-------|----------|---------|--|
| 最近 | 全社 | -32 | -30 | <ul style="list-style-type: none"> 国内景気の最近のDIは、前回調査から製造業は5ポイント悪化し、非製造業は9ポイント改善となっている。 先行きは、前回調査比、今回調査最近比とも改善傾向にあるものの、DIの水準は-25と厳しい見通しが続いている。 |
| | 内製造業 | -27 | -32 | |
| | 内非製造業 | -38 | -29 | |
| 先行き （6カ月先） | 全社 | -32 | -25 | |
| | 内製造業 | -33 | -25 | |
| | 内非製造業 | -30 | -25 | |

| 2. 業界の景気 DI （「上昇」－「下降」） | | 11年10月調査 | 12年1月調査 | |
|----------------------------|-------|----------|---------|---|
| 最近 | 全社 | -33 | -24 | <ul style="list-style-type: none"> 業界の景気の最近のDIは、製造業が7ポイント、非製造業で11ポイント改善するも、DIの水準は-25程度と引き続き厳しい状況が続いている。 先行きは、前回調査比、製造業、非製造業ともに10ポイント前後改善するものの、最近比では製造業が6ポイント改善する見通しとなっているのに対し非製造業は横ばいに留まっている。 |
| | 内製造業 | -32 | -25 | |
| | 内非製造業 | -35 | -24 | |
| 先行き （6カ月先） | 全社 | -32 | -22 | |
| | 内製造業 | -28 | -19 | |
| | 内非製造業 | -37 | -25 | |

| 3. 自社の業況 DI （「上昇」－「下降」） | | 11年10月調査 | 12年1月調査 | |
|----------------------------|-------|----------|---------|--|
| 最近 | 全社 | -6 | -4 | <ul style="list-style-type: none"> 最近の自社の業況については、非製造業は6ポイント改善するものの、製造業は2ポイントの悪化となっており、全社ベースでも僅かな改善にとどまっている。 先行きについては、前回調査比改善しているものの、12/1月調査最近比では非製造業は横ばい、製造業では6ポイント悪化の見通しとなっており製造業の回復感が弱い。 |
| | 内製造業 | -3 | -5 | |
| | 内非製造業 | -10 | -4 | |
| 先行き （6カ月先） | 全社 | -11 | -7 | |
| | 内製造業 | -15 | -11 | |
| | 内非製造業 | -6 | -4 | |

II-1. 経営動向 (売上高)

| 1. 売上高 DI (対前四半期比) | 実 績 | | 見 通 し | | <ul style="list-style-type: none"> 11/10-12月期の売上高 DI はプラスの状況は続いているが、前期比で見ると全社ベースで10ポイント悪化している。前回見通しとの比較では製造業は4ポイント改善するも非製造業は8ポイント悪化している。 12/1-3月期は製造業、非製造業ともに大幅に悪化し、マイナスに転じている。 12/4-6月期は、製造業ではさらに悪化する見通しだが、非製造業は改善しプラスに転じる見通しとなっている。 |
|-----------------------|--------|--------------|-------------|--------|--|
| | 11/7-9 | 11/10-12 | 12/1-3 | 12/4-6 | |
| 全 社 | +25 | (+18) +15 | (-6) -6 | -6 | |
| 内 製 造 業 | +21 | (+13) +17 | (-4) -11 | -17 | |
| 内 非 製 造 業 | +30 | (+22) +14 | (-8) -2 | +3 | |

| 2. 経常利益 DI (対前四半期比) | 実 績 | | 見 通 し | | <ul style="list-style-type: none"> 11/10-12月の経常利益 DI は、前回調査比、前回見通し比で製造業、非製造業ともに悪化し、収益環境が厳しさを増していることがうかがえる。 12/1-3月期は、製造業、非製造業とも前期比、前回見通し比で大幅に悪化し、特に製造業は-26と減益に転じるという見通しとなっている。 12/4-6月期も厳しい状況が続き、非製造業も減益に転じる見通しとなっている。 |
|------------------------|--------|-------------|--------------|--------|---|
| | 11/7-9 | 11/10-12 | 12/1-3 | 12/4-6 | |
| 全 社 | +13 | (+15) +5 | (+18) -11 | -9 | |
| 内 製 造 業 | +13 | (+10) +1 | (+18) -26 | -18 | |
| 内 非 製 造 業 | +14 | (+20) +9 | (+17) +5 | -1 | |

(注) 11/10-12月期、12/1-3月期の上段の()内の数値は11年10月調査時の見通し

III. その他

| 1. 製品の在庫水準 DI (「過大」-「不足」) | | 11年10月調査 | 12年1月調査 | <ul style="list-style-type: none"> 最近の在庫水準 DI は、前回調査比で製造業は4ポイント、非製造業では2ポイント上昇しており、引き続き在庫の過大傾向が続いていることがわかる。 先行きの DI は、前回調査比ほぼ横ばいで、12/1月よりは在庫過大傾向は改善される見通しとなっている。 |
|------------------------------|-----------|----------|---------|---|
| 最 近 | 全 社 | +9 | +12 | |
| | 内 製 造 業 | +16 | +20 | |
| | 内 非 製 造 業 | +1 | +3 | |
| 先 行 き (6カ月前) | 全 社 | +4 | +4 | |
| | 内 製 造 業 | +9 | +8 | |
| | 内 非 製 造 業 | -2 | -1 | |

| 2. 生産・営業用設備 DI (「過剰」-「不足」) | | 11年10月調査 | 12年1月調査 | <ul style="list-style-type: none"> 最近の設備 DI は前回調査比で製造業で2ポイント、非製造業で4ポイントとわずかではあるが過剰感が増加している。 先行きの DI は前回調査比、最近比では製造業で過剰感が高まるのに対し、非製造業は過剰感が解消し、不足に転じるものとみられる。 |
|-------------------------------|-----------|----------|---------|---|
| 最 近 | 全 社 | +1 | +2 | |
| | 内 製 造 業 | +4 | +2 | |
| | 内 非 製 造 業 | -1 | +3 | |
| 先 行 き (6カ月前) | 全 社 | +2 | -1 | |
| | 内 製 造 業 | +4 | +10 | |
| | 内 非 製 造 業 | +1 | -11 | |

| 3. 雇用人員 DI (「過剰」 - 「不足」) | | 11年10月調査 | 12年1月調査 | <ul style="list-style-type: none"> • 最近の雇用 DI は前回調査比ほぼ横ばいとなっているものの、製造業では+7⇒+4と過剰感が縮小しているのに対し、非製造業は-9⇒-5と不足感が低下している。 • 先行きについては、前回調査比、最近比とも製造業では過剰感が増加、非製造業では不足感が増加と、雇用人員については好対照の動きとなっている。 |
|-----------------------------|---------|----------|---------|--|
| 最 近 | 全 社 | -1 | -1 | |
| | 内 製 造 業 | +7 | +4 | |
| | 内非製造業 | -9 | -5 | |
| 先 行 き (6カ月先) | 全 社 | -1 | -4 | |
| | 内 製 造 業 | +9 | +12 | |
| | 内非製造業 | -11 | -19 | |

| 4. 資金繰り DI (「楽」 - 「厳しい」) | | 11年10月調査 | 12年1月調査 | <ul style="list-style-type: none"> • 最近の資金繰り DI は、前回調査比では、製造業は3ポイント改善し、プラスに転じ、非製造業は10ポイント悪化し、繁忙感が増している。 • 先行きは、最近比で非製造業は変わらないものの、製造業はDI-11とマイナスに転じ、繁忙感は和らいでいる。 |
|-----------------------------|---------|----------|---------|--|
| 最 近 | 全 社 | +4 | +1 | |
| | 内 製 造 業 | -2 | +1 | |
| | 内非製造業 | +11 | +1 | |
| 先 行 き (6カ月先) | 全 社 | +1 | -5 | |
| | 内 製 造 業 | -3 | -11 | |
| | 内非製造業 | +6 | +1 | |

| 5. 販売価格 DI (「上昇」 - 「下落」) | | 11年10月調査 | 12年1月調査 | <ul style="list-style-type: none"> • 最近の販売価格 DI は、前回調査比で製造業、非製造業ともに価格下落傾向が強まっていることがうかがえる。 • 先行きの DI でも引き続き下落傾向は続く見通しとなっている。 |
|-----------------------------|---------|----------|---------|---|
| 最 近 | 全 社 | -13 | -18 | |
| | 内 製 造 業 | -15 | -17 | |
| | 内非製造業 | -10 | -19 | |
| 先 行 き | 全 社 | -21 | -19 | |
| | 内 製 造 業 | -22 | -22 | |
| | 内非製造業 | -21 | -16 | |

| 6. 仕入価格 DI (「上昇」 - 「下落」) | | 11年10月調査 | 12年1月調査 | <ul style="list-style-type: none"> • 最近の仕入価格 DI は、前回調査比で製造業4ポイント改善、非製造業は3ポイント悪化と反対方向の動きを示しているものの、全社ベースでは+17とほぼ前回調査と同水準であり、引き続き上昇傾向が続くとみている。 • 先行きの DI は、最近比で製造業、非製造業ともに上昇するとみている割合が高まっている。 |
|-----------------------------|---------|----------|---------|--|
| 最 近 | 全 社 | +18 | +17 | |
| | 内 製 造 業 | +26 | +22 | |
| | 内非製造業 | +8 | +11 | |
| 先 行 き | 全 社 | +14 | +22 | |
| | 内 製 造 業 | +20 | +26 | |
| | 内非製造業 | +6 | +17 | |

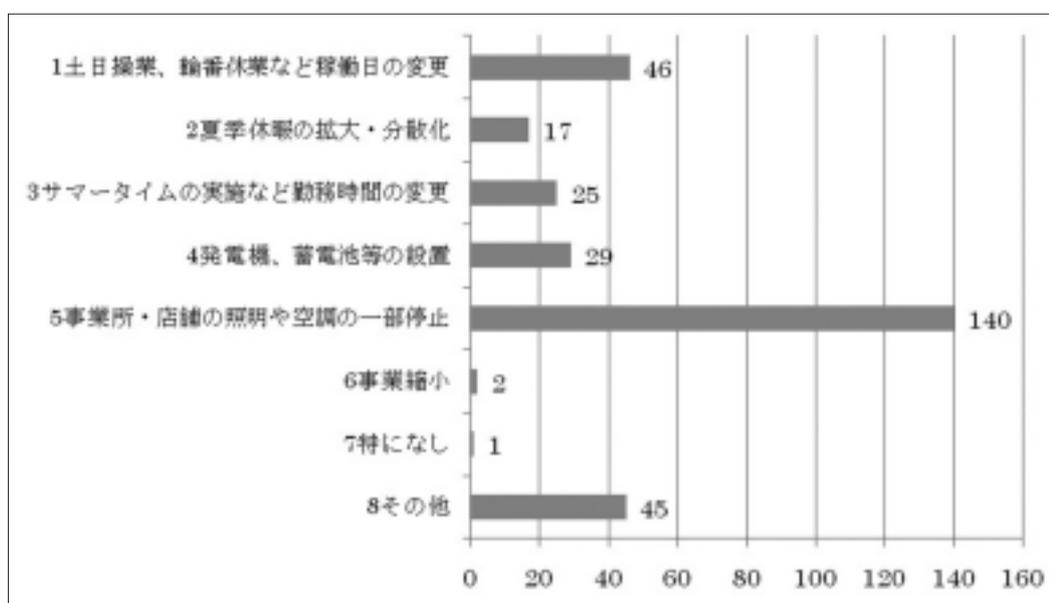
今夏及び今冬以降の節電の取組に関するアンケート調査結果

I アンケート調査の概要

- 1 調査対象及び調査数：(社)埼玉県経営者協会 会員企業714先
- 2 調査方法：緊急調査のため、FAX による配布・回収
- 3 調査期間：平成23年12月1日～12月12日
- 4 有効回収数及び回収率：151先 (21.1%)
- 5 調査機関：(社)埼玉県経営者協会

II 調査結果の概要

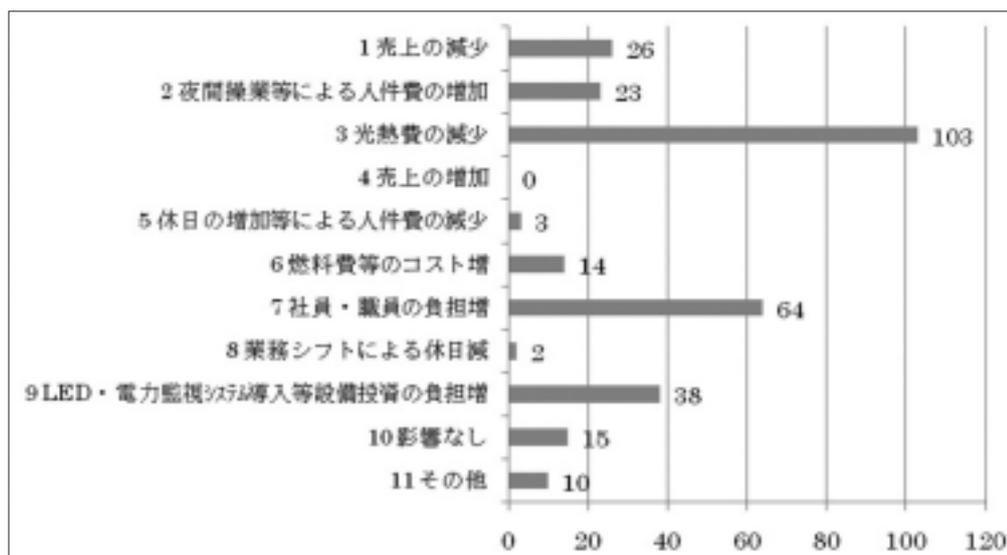
Q1 今夏の電力不足に対しどのような対応を取りましたか。(複数回答可)



「その他」の主な回答

| 対応内容 | 回答数 |
|--------------------------------|-----|
| 生産設備・付帯設備の運転制限、省エネ改造、管理システムの導入 | 15 |
| 照明のLED化、省エネ化 | 9 |
| クールビズ・スーパークールビズの実施、徹底、期間延長など | 5 |
| グリーンカーテンの導入・実施 | 5 |
| OA機器、エアコンなどの待機電力制限などの徹底 | 4 |
| 自動販売機の撤去、稼働停止 | 3 |
| 他工場へ生産移管 | 1 |

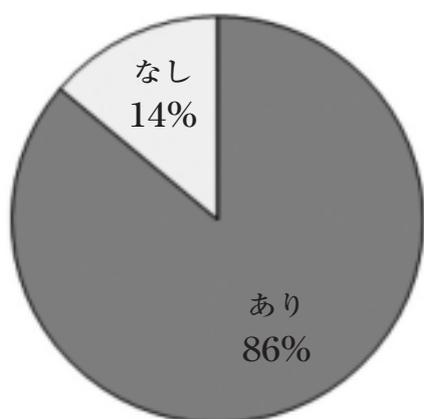
Q2 今夏の電力不足及び節電によりどのような影響がありましたか。(複数回答可)



「その他」の回答内容

| | |
|---------------------|------------------------|
| ○託児所の社内新設（福利厚生経費増） | ○従業員の経費削減意識が高まった |
| ○計画停電時は時間内に社員を帰宅させた | ○発電機のレンタル費用と設置工事費用の負担増 |
| ○生産減少（他工場への生産振り分け） | |

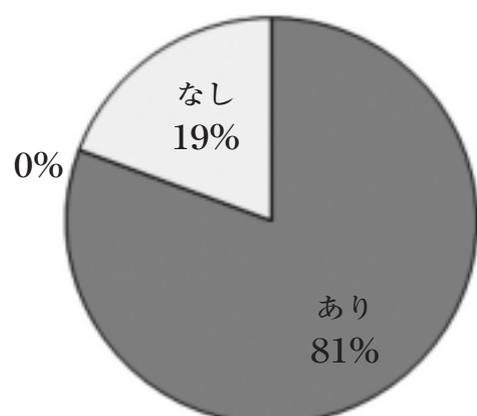
Q3 今冬、予定している節電の取組はありますか。



「あり」と回答した企業の具体的取組の主な内容

| 具体的取組の主な内容 | 回答数 |
|-----------------------------------|-----|
| 照明や空調の一部停止、空調設定温度の引き下げ | 91 |
| 夏同様または継続実施している節電対策の実行〔一部上記対策も含む〕 | 31 |
| 照明のLED化、空調設備の更新（省エネタイプ、ガス・石油への切替） | 16 |
| ウォームビズの実施、推進 | 13 |

Q4 電力不足が危惧される来年夏に向けて、予定している節電の取組はありますか。



「あり」と回答した企業の具体的取組の主な内容

| 具体的取組の主な内容 | 回答数 |
|--------------------------------------|-----|
| 今年度同様の節電対策を維持・継続〔一部下記対策も含む〕 | 53 |
| 設備の更新・変更（LED化、省エネ空調、管理システム導入、発電設備など） | 52 |
| 照明、空調などの節電対策（一部停止、設定温度管理など） | 25 |
| 操業体制変更（夏季休暇拡大、輪番休業、サマータイム、定時退社など） | 6 |

四者面談会に 本会会員企業経営者が参加

埼玉県教育委員会が主催した「企業経営者と生徒・保護者・先生による四者面談会」が一月十五日、埼玉グランドホテル深谷を会場に開催され、本会推薦の会員企業経営者五名(別記)、学校側からは二〇組・五八名が参加した。

この四者面談会は、平成二十年までは本会と連合埼玉を母体としていた埼玉県地域労使就職支援機構が主催していた事業で、高校生が経験豊かな産業人から職業観や企業が求める人材像などについてアドバイスをもらうことで、将来について真剣に考え、より良い進路を選択するきっかけとすることを目的に平成十五年度から開催

しており、平成二十三年度までに高校は延べ一七六校から三七五組が参加している。

この四者面談会は、産業界、労働界、県教育委員会が連携し、高校生の進路・就職を支援する取り組みとしては全国でも例がなく、モデル事例として注目を集めている。

県教育委員会はこの事業の必要性および職業観醸成に対する効果性を認識し、継承するかたちで平成二十一年度から教育委員会主催で実施している。本会以外の経済団体にも面談経営者の派遣を依頼、北部地区も含め全二カ所で開催し、学校側からは合わせて五十四組が参加した。深谷会場での面談会で

は、阿久津 主席指導主事が、「平成十五年から開催しているこの面談会は、教育委員会としても素晴らしい取り組みと認識しており、企業経営者

の方々からは貴重なアドバイスをいただき、生徒、保護者、特に教員に対しては貴重な意識改革の場となっている。」との話があった。

前回に引き続き、参加高校の裾野を広げ、県北部の進学校から大学進学を控えた九名の生徒の参加もあり、大学進学後の職業観の醸成や大学における学びなどについて産業界からアドバイスがあった。

面談を終えた生徒および保護者は、面談前とは表情が明らかに一変し、充実感のある笑顔で経営者や教員に元気にあいさつをしていた。終了後のアンケートで生徒からは、「何のために働くか」ということを意識していくことが大事だと聞かされ、考え方が変わりました。

会社の名前だけに捕らわれず、自分にあった職を探していこうと思えます。あとは、まず学校生活をしっかりと送って、充実した人生にしたいです。本日はお忙しい中ありがとうございました。」や「今まで人間関係に困ったことがたくさんあり、その度に、逃げてばかりいた自分ですが、今日企業経営者のお話を聞いて、それではいけないんだと改めて感じました。これからは、少しでも自分を変える努力をして、周りも変えていけたらと思います。」また、「企業を経営している方のお話が聞けて、今後人生の大部分を占める職業生活

について深く考えるきっかけになった。「自分の意見はしっかり持って、上司にはつきりと伝えろ。」というお言葉は、特に心に響いた。

将来のことを考えるきっかけとなり本当に良かった。」などの感想が寄せられ、保護者からは、「子どもに熱く語ってくれる大人はなかなかいないものです。経営者の話は分かりやすく、これから行く会社で子どもが実行してくれるでしょう。ともに成長していこうと思つた。」や「様々な立場から意見が聞けること、講演会等では話せないようなことも話せること、一方的に聞くだけでないこと、一つの事柄にも立場の違いや感じ方の違いが分かりやすい。特に子供に対してアドバイスや応援の言葉をもらうことで意欲がわくと思つた。」さらに教員からは「社員に求められることは「挨拶」「積極的に物事を考えること」「気配り」という話は、そのまま教員に求められることだと思つた。この3つの力を持った生徒の育成ができるよう指導していきたい。」や「進路というより、生き方そのものを考えていく上で貴重なお話を伺うことができ感謝しています。高校に求めることの話も大変参考になった。」などの感想も寄せられた。

このように、今年度で九年目となつた「四者面談会」は、毎年、参加者からは高い評価を得ている。

一月十五日・埼玉グランドホテル深谷会場
〔産業界側面談者〕
(敬称略・面談者五十音順)
▽石塚 巧 キヤノン電子 常務取締役人事センター所長
▽牛窪 啓詞 愛工舎製作所 代表取締役
▽芥木 政美 サンケン電気 管理本部総務人事グループリーダー
▽高橋 福八 高橋商事 代表取締役(本庄商工会議所会頭)
▽藤池 誠治 デサン 代表取締役

面接風景



◆平成二十三年度実施一覽
実施日 会場 協力経済団体 参加組数を表示
◇第一回◇一月十五日 午前 埼玉グランドホテル深谷
◇第二回◇一月十五日 午後 埼玉グランドホテル深谷
◇第三回◇一月二十八日 午前 埼玉県産産業振興公社 十七組
◇第四回◇一月二十八日 午後 大宮ソニックスンティ
◇第五回◇一月二十八日 午前 埼玉県中小企業家同友会 十一組
◇第六回◇一月二十八日 午後 大宮ソニックスンティ
◇第七回◇一月二十八日 午後 埼玉県商工会議所連合会、さいたま商工会議所 十五組

埼玉大学研究者との出会いの広場

シリーズ
第69回

今回の内容について、ご関心・興味をお持ちの方は、下記にご連絡下さい。
 埼経協 専務理事 根岸 茂文、事務局次長 宮田 信久 ☎048-647-4100
 FAX048-641-0924

| 研究の内容 | 産業への展開 |
|---|--|
| <div data-bbox="121 376 260 546">  </div> <div data-bbox="293 418 681 463"> <h2>鏡面創成用砥石の開発</h2> </div> <div data-bbox="539 468 1169 504"> <p>埼玉大学大学院理工学研究科 澁谷 秀雄 助教</p> </div> <div data-bbox="121 526 638 822"> <p>電子部品や光学部品の加工では、その形状精度だけでなく無歪・超平滑表面（無擾乱鏡面）が求められています。一般的にこれらの仕上げ加工には研磨といった遊離砥粒加工が適用されています。しかしながら、近年では形状創成能力・加工能率・環境負荷等の観点から遊離砥粒加工を研削といった固定砥粒加工で代替することが要請されています。</p> </div> <div data-bbox="121 828 628 974"> <p>これまでに筆者らは鏡面創成用砥石の研究開発を行い、鏡面研削加工を実現しています。ここでは開発した砥石の特徴や加工事例について紹介します。</p> </div> <div data-bbox="121 981 638 1202"> <p>微粒子や超微粒子は溶液中で帯電しており、それを含む液中で電場を与えると帯電粒子は電気力によって一極に引き寄せられ、吸着層を形成します。これを電気泳動現象（ElectroPhoretic Deposition）といい、著者らはこの現象を利用して砥石（以下、EPD 砥石と呼ぶ）を作製しています。</p> </div> <div data-bbox="667 526 1177 745"> <p>EPD 砥石は砥粒が均一に配列されて砥粒密度が高く、均質な砥石であります。また適度な結合強度を有する結合材を用いることにより、自生発刃特性に優れています。これにより、スクラッチや焼けの原因となる脱落や目詰まりを抑制することができます。</p> </div> <div data-bbox="667 752 1177 1162"> <p>EPD 砥石をシリコンの鏡面研削に適応した例を示します。8 インチシリコンウエハに対して事前にダイヤモンド砥石で前加工した面に対して、加工液を一切使用しない乾式雰囲気での EPD 研削を施しました。図に示すとおり、EPD 研削後では研削痕、焼けやスクラッチのない鏡面が創成されており、その表面粗さは約10nmRz でありました。また、前加工で生じた加工歪みを除去することもわかっています。またシリコン以外にも、水晶、サファイアや光学ガラスの鏡面創成も可能であることがわかっています。</p> </div> | <p>これらはベアウエハの鏡面仕上げや裏面研削（バックグラインディング）への適応を考慮しております。また、今後はパワージェイスへの適応が期待されている SiC ウエハ、また非球面レンズといった複雑形状への適応を検討しています。</p> <p>学歴・略歴 澁谷 秀雄 （しぶたに ひでお） 1992年 豊橋技術科学大学 工学部 生産システム工学科 卒業 1994年 豊橋技術科学大学大学院 工学研究科修士課程 生産システム工学専攻 修了 1998年 名古屋大学大学院 工学研究科博士後期課程 材料機能工学専攻 修了 1998年 博士(工学)所得 1998年 豊橋技術科学大学 工作センター 助手 2000年 豊橋技術科学大学 生産システム工学科 助手 2004年 埼玉大学大学院 理工学研究科 助手 2008年 埼玉大学大学院 理工学研究科 助教 1994年～1997年 日本学術振興会 特別研究員 2000年～2001年 ノースカロライナ州立大学シャーロット校 客員研究員</p> |
| <div data-bbox="121 1256 260 1426">  </div> <div data-bbox="293 1296 873 1341"> <h2>情報セキュリティ工学環境の開発</h2> </div> <div data-bbox="539 1346 1169 1382"> <p>埼玉大学大学院理工学研究科 後藤 祐一 助教</p> </div> <div data-bbox="121 1400 628 1919"> <p>情報システムは社会の基盤として重要な役割を担う存在となっている。情報システムが十分な情報セキュリティを備えているかどうかは非常に重要な問題である。情報セキュリティにおいて難しい点は、攻撃者の攻撃能力が日々向上していく点にある。このため、情報システムの設計・開発時においてシステムが最良のセキュリティ強度を保っていたとしても、時間とともにセキュリティ強度が十分ではなくなってしまう。よって、セキュリティ強度を保つために、保守し続けなければならない。また、システム全体のセキュリティ強度は、最もセキュリティ強度が低いコンポーネントや作業工程によって決まってしまう。このため、システムを構成するすべてのコンポーネントおよび作業工程におけるセキュリティ強度を一定以上に保たなければならない。</p> </div> <div data-bbox="121 1921 628 2083"> <p>従来のソフトウェア開発のための工学環境（支援ツール群）は、利用者の要求どおりにソフトウェアを開発することを支援目的として開発されている。このため、上述の情報セキュリティにおける難点に対応できていない。</p> </div> <div data-bbox="667 1400 1185 1821"> <p>そこで、情報セキュリティの難点に対応し、情報システムの設計から廃棄までを一貫して、かつ、継続的に国際規格に基づき支援する情報セキュリティ工学環境 ISEE（アイシー）の開発を行っている。ISEE は、セキュリティに関する国際規格に準拠した作業および成果物の作成を支援する。これにより、情報システムを構成するすべてのコンポーネントおよび作業工程におけるセキュリティ強度を一定以上に保つことができる。また、情報システムのセキュリティ機能開発や保守や運用に関わる作業を支援することで、日々生まれる新たな攻撃や脆弱性への対応を素早く行えるようになる。</p> </div> <div data-bbox="667 1823 1177 2049"> <p>現在は、ISEE 実現の第一歩として ISO/IEC 15408 に関する作業を支援するツールの設計および開発を行っている。これまでに ISO/IEC 15408 が定義するセキュリティ機能の仕様書であるセキュリティターゲットの作成と保守支援ツールおよびセキュリティターゲットのひな形自動生成ツールの開発を行った。</p> </div> | <p>作業支援サービスの提供</p> <p>学歴・略歴 後藤 祐一 （ごとう ゆういち） 2001年 埼玉大学工学部情報システム工学科卒業。 2003年 同大学院理工学研究科博士前期課程情報システム工学専攻修了。2005年 同博士後期課程情報数理科学専攻修了。博士(工学)。 2005年 埼玉大学工学部助手。平成2007年から同大学院理工学研究科助教。知識工学および情報セキュリティ工学の研究に従事。</p> |

「ものづくり大学」へようこそ

連載
第50回

今回の内容について、ご関心・興味をお持ちの方は、下記にご連絡下さい。
埼経協 専務理事 根岸 茂文、事務局次長 宮田 信久 ☎048-647-4100
FAX 048-641-0924



グローバル人材の育成

製造学科 ビチャイ サェチャウ 教授

円高や新興国の成長市場などの動向に対して、海外へ進出する企業が最近再び急速に増加しています。特に製造業においては、グローバル企業としての競争力を維持するために外国で製品を生産する進出企業が最大手企業から中小企業まで及んでいます。海外への進出と伴って、ものづくりを海外で担うグローバル技術者の需要が必然的に高まっていると同時にグローバル人材の育成が多くの教育機関に注目されています。

ものづくり大学では、2001年開校当時から掲げた大学の教育理念の一つ「技能・科学技術・社会経済のグローバル化に対応できる国際性の重視」に沿ってグローバル人材の育成に取り組んでいます。ここで、製造学科のカリキュラムに組込まれているグローバル人材に関連する教育を紹介します。

1) 海外での長期インターンシップ：本インターンシップは、本学とタイ王国にある泰日工業大学との国際交流協定に基づく交換留学プログラムの一環です。本研修の特徴としては、約2ヶ月間の長期研修であることと、現地の日系企業またはタイ企業で研修を受けることです。この長期研修を通じて、グローバル技術者に求められるコミュニケーション

能力、語学力、プレゼンテーション力、環境への適応力などが少なからず身に付けられると期待したいところです。

2) 英語教育：科目構成としては、1年次～3年次のほぼ全学期に英語クラス(コミュニケーション英語、工業英語など)が配当されています。学生は長期かつ継続的に英語の授業が受講できます。これはグローバル化に対応できる国際性を重視した証です。また、この充実さは理工系大学にすれば珍しい。さらに、TOEICテストプログラムを導入し、TOEICスコアを基準とした英語力のレベルアップを図ります。

3) Visiting Foreign Students Program：本プログラムは、製造学科が毎年開催するFゼミの大会(かくりマシンコンテスト)に本学の学生諸君に加えて留学生にも参加させるプログラムです。このような多様性をもつFゼミ大会がこれまで3回開催されました。学生諸君はこの多様性を通じて、グローバル化の大切さを感じたと思います。

最後に、グローバル人材の育成にあたって、海外の大学および企業が極めて重要な役割です。今後、より多くの大学/企業にご協力していただけるように努力していきたいと考えます。

ビチャイ サェチャウ (びちやい さえちやう) 教授、King Mongkut's Institute of Technology North Bangkok 卒、東京工業大学博士課程終了、2001年4月からものづくり大学講師、現在教授。電気学会、計測制御学会所属。(連絡先：048-564-3840 / vichai@iot.ac.jp)



ものづくり競技大会が果たす役割

建設学科 佐々木 昌 孝 講師

ものづくり大学からは毎年、技能五輪全国大会と若年者ものづくり競技大会に学生選手が出場しています。12月に開催された2011年度技能五輪全国大会(静岡)には、4職種8名の在校生が出場しました。

私の専門分野は木工で、競技大会に向けては「家具」や「木材加工」に出場する選手の指導を行っています。本学の学生の中には、競技大会に参加したい、という明確な目標を持って入学してくる者もいます。中央職業能力開発協会が主催する両大会は、若年者の方は、職業能力開発施設や工業高等学校等において技能を習得中の企業等に就業していない20歳以下の若者を対象にした大会です。一方、技能五輪は都道府県予選を経て選ばれた代表選手が一堂に会する23歳以下の大会で、青年技能者の技能レベルの日本一を競う大会です。その目的は、両大会とも、次代を担う青年技能者に努力目標を与えるとともに、大会

開催地域の若年者に優れた技能を身近にふれる機会を提供するなど、技能の重要性、必要性をアピールし、技能尊重機運の醸成を図ることにおかれています。

このような、基本的には若手技能者を育成する役割を担う各種ものづくり競技大会ですが、本学では、技能者を目指す学生はもちろんのこと、学生がプロフェッショナルなものづくりの一端に触れる絶好の機会であると考え、在校生の競技大会参加を応援しています。

卒業して職人(技能者)になる者、職人に指示を出す立場でものづくりに携わる者、どのような道に進む若者にとっても、競技大会予選を突破するためがむしゃらにがんばった経験、予選・本戦を通じて得られた成果と達成感は、なにもものにも代え難い宝になると思います。

佐々木 昌孝 (ささき まさたか) 講師、三重大卒、早稲田大学大学院理工学研究科建設工学博士後期課程単位取得、工学修士、早稲田大学理工学部建築学科専任助手を経て2006年9月からものづくり大学助手、現在講師。日本建築学会所属。(連絡先：048-564-3846 / sasaki@iot.ac.jp)

青年経営者協会

千葉県経営者協会との合同例会開催

合同例会開催

青年経営者部会では、今般初の試みとして、千葉県経営者協会青年経営者クラブとの合同例会を平成二十四年二月三日(金)千葉県流山市の株式会社アビーの視察と三井ガーデンホテル柏での懇親会の二部構成で行った。

当会からは、松本伸一郎(松本商会・社長)、部会長をはじめ、梶原靖友(梶原工業・専務)、藤池一誠(デサン・専務)の副部会長、並びに、増田 学(友栄塗装・社長)幹事を含め十五人が参加した。

また、千葉青年経営者クラブからは、椿 孝夫(花椿テクノサービス・社長)部会長、中村卓見(千葉測量・社長)幹事を含め十五人が参加し、合計三十名となった。

視察を行った(株)アビーは、世界で初めて細胞を生かしたまま冷凍できる新冷凍装置・CASを開発しました。これは、例えば、蕾のついた切り花を凍結し、一年後に解凍して開花させることも可能な技術です。また、CASは、単なる急速冷凍装置ではありません。

細胞組織を生かす装置であり、急速装置内に「パルス磁場」を発生させ、さらに、「電子」も起動させることにより、水分子を寄り集めずに、一気に過冷却状態を作り、細胞組織を生かし、電子の起動が美味しさを守るといふものです。

即ち、CASと急速冷凍装置の組み合わせ装置なのです。その技術の優秀さは数々の賞を受賞していることから証明されています。

2007年、組織を壊さず長期保管を可能にしたCASシステムは、新鮮食材の時間と距離の壁を越える開発として、第三回つくばベンチャー大賞を受賞。2008年、農林水産省と経済産業省より、海産物の新鮮出荷を可能にする技術と取組が評価され「農商工連88選」に認定。同年、経済産業大臣

より、明日の日本を支える元気なモノ作り中小企業三百社に認定。また、2009年、(財)日本ファシヨン協会よりCASは、日本クリエイション大賞を1994年のシヤープの液晶技術、98年のパナソニックの電気自動車向けニッケル水素蓄電池に次いで、メーカーとして三社目の受賞をしています。

講演で、大和田哲雄社長は長年食品業界に携わってきたが、機械を作り、設計する人達が食品素材にまったく興味を持っていないことに驚いたとのこと。そこで、これではいかんと、(株)不二精油の丸山部長に素材の勉強と機械の開発を一緒にやろうと声を掛けていただき、ここからスタートし、今の開発につながっていると、当時を思い出していた。

「今日の完成は明日の未完成」アビーの技術は、誘電からCAS、そして、GPOへと進化し続けます。さまざまな用途開発に挑戦し、食糧備蓄や医療への応用、さらには農業や漁業、酪農、畜産など、第一次産業を取り巻くさまざまな環境変化にも、CAS技術で貢献することが私の夢であり、今後もし生産や食品加工のお客様と一緒に将来を見つめ、お客様が利益の上がるシステムを考え続けるアビーでありたいと話された。

第二部の懇親会は会場を三井ガ

ーデンホテル柏に移し、椿 孝夫千葉県経営者協会青年経営者クラブ部会長と松本伸一郎埼玉県経営者協会青年経営者部会部会長が挨拶を行い、茂木康三郎利根コカ・コーラボトリング会長が乾杯の音頭を取り、埼玉と千葉の合同例会は、相互の親睦と交流を深め、最後に梶原靖友副部会長のメの音頭で幕を閉じ、成功裏のうちにお開きとなった。



挨拶する松本伸一郎部会長



講演する(株)アビーの大和田哲雄社長



乾杯する茂木康三郎千葉県経営者協会北総支部長



参加者全員による集合写真

就職未内定学生と 企業との面接会

本会会員企業などが参加

学生の就職環境は東日本大震災等の影響により、依然厳しさを増している状況であり、今春卒業予定大学生の就職内定率（厚生労働省、文部科学省共同調査・十二月一日現在）は全国平均で七一・九%、一方、県内公立高校生の就職内定率（県教育委員会調査・一月末現在）は八三・四%となっている。前年同期比で見ると、大学生は三・一%プラス、高校生も一・二%プラスとなっており、様々な悪条件の中で学校を含め、それぞれの関係者が協力した結果が出ているようであるが、依然として低い水準には変わらない。

こうした状況に対応するため、県や国（埼玉労働局）では就職未内定者の緊急支援として、昨年からは就職面接会や相談会など様々な緊急就職支援事業を開催している。本会も協力を要請を受け、採用の可能性がある会員企業やインターンシップ登録企業などに声を掛け、数多くの企業に合同企業面接会などに参加していただいた。

開催日程により学生や企業の参

加にバラつきも見られたが、正規の採用面接や試験に結び付き、採用まで至った例も聞こえてきており、今春卒業までに一人でも多くの学生が就職できればと願う。

平成二十三年四月以降 開催した合同面接会など

対象：就職未内定大学・短期大学・専門学校
主催：埼玉県
共催：各経済団体

◇合同企業面接会

○十月十三日／

埼玉りそな銀行

○十一月二八日

／ホテルブリランテ武蔵野
With You さいたま

○十二月二日

／ホテルブリランテ武蔵野



面接会風景

エメラルド
○一月十六日／ホテルブリランテ
武蔵野 With You さいたま
○二月二十四日／ホテルブリランテ
武蔵野 With You さいたま

対象：就職未内定高校生
主催：埼玉労働局・ハローワーク
後援：埼玉県・埼玉県教育委員会
◇就職面接会
○十一月一日／大宮ソニックシティ
イ、企業は一〇八社、学生は九一六人が参加
○一月二四日／大宮ソニックシティ
イ、企業は七三社、学生は二七七人が参加
○二月二八日／大宮ソニックシティ
イ、企業は六四社参加予定

全国ネットの人材情報で、 出向・移籍等の支援！

お気軽に
ご相談ください

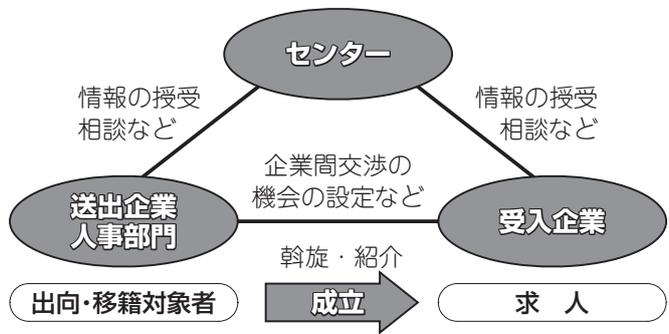
企業間の人材マッチングを
サポートしています。

信頼と安心

経済・産業団体と厚生労働省の協力で設立された公益法人です。

無料

情報の提供、相談、あっせん費用はかかりません。



出向・移籍の専門機関

財団法人 産業雇用安定センター

埼玉
事務所

●お問い合わせ

☎048-642-1121 (土・日・祝日休)

http://www.sangyokoyo.or.jp/

第10回 渋沢栄一賞表彰式



前列左から3番目 上田清司埼玉県知事
 〃 4番目 小川哲也太平洋工業(株)相談役名誉会長代理 小川信也社長
 〃 5番目(中央) 柳内光子山一興産(株)代表取締役社長

小川哲也氏、柳内光子氏が 渋沢栄一賞を受賞

二月二日、埼玉県出身の実業家、渋沢栄一の子孫を受け継ぐ全国の経営者や企業に贈られる「第一〇回渋沢栄一賞」の表彰式が渋沢栄一の生誕の地である深谷市の埼玉グランドホテル深谷で開催され、二名の経営者が表彰を受けた。

京経営者協会が推薦した山一興産株式会社代表取締役社長の柳内光子氏の二氏が受賞した。表彰は、渋沢栄一賞選考委員長の利根忠博本会特別顧問の講評の後、上田清司埼玉県知事から表彰状と記念品が贈呈された。そして渋沢栄一記念財団と、渋沢栄一の生誕地深谷市からもそれぞれ記念品が贈呈された。

受賞理由は次のとおり。
 ◇小川哲也氏(太平洋工業(株)相談役名誉会長・岐阜県大垣市)
 トヨタ自動車を主要顧客とするプレス・樹脂事業での開発・生産体制を確立。海外シェア二〇%、国内シェア一〇〇%を誇るタイヤバルブのトップメーカーとしての地位を築く。

また、科学技術振興と地域産業発展を目的に設立した(公財)小川技術科学財団を長きにわたり運営し、岐阜県内の大学・短大・高专・高校の研究者や産業振興団体等へ二五二件、七九〇〇万円の助成を行っている。

◇柳内光子氏(山一興産(株)代表取締役社長・千葉県浦安市)
 生コンクリート販売から納入段階まですべての業務プロセスを見直し、標準化・規格化を実現した。

また、私財を投じ、社会福祉法人江戸川会豊生会を設立。特別養護老人ホーム「福楽園」等を開設した他、保育園・幼稚園・保育専門学校等も運営。さらに浦安市へ高規格救急車を寄贈。本会は、渋沢栄一賞の創設に深



審査講評を行う
利根忠博本会特別顧問

く関わり、近代日本を築いた渋沢翁の生き方や功績を全国に発信し

第七回さいたま輝き荻野吟子賞

「いきいき職場部門」、(株)ウイズネット、

埼玉信用金庫の本会二会員が受賞

平成三三年度・第七回さいたま輝き荻野吟子賞の表彰式が、二月八日(水)知事公館で開催され、本会員である、(株)ウイズネット、埼玉信用金庫の二会員が受賞した。(受賞理由等は以下の通り)

◆株式会社ウイズネット

総合福祉業を展開。平成一〇年の設立当初から女性が活躍できる職場づくりに向け、産前産後休暇、育児休暇、介護休暇、育児・介護における短時間勤務制度などを導入。役職昇格推薦書に性別記入欄がないなど性別や年齢を昇格の判断基準とせず、その結果、全管理職の五〇%を女性が占めている。所属長などが各種制度の利用を積極的に進めるとともに、社員の間別相談に即応できる体制が整備されている。

◆埼玉信用金庫

男性を含めた育児休暇取得のための体制整備やにノイ残業デーの実施による所定外労働時間の削減を通じ、仕事と子育ての両立、仕事の生活の調和(ワークライフバランス)を支援し、柔軟な働き方を選択できるよう取り組んでいる。

たいとする埼玉県の活動を全面的に支援し本賞の普及に努めている。



上田清司埼玉県知事より表彰状を授与される(株)ウイズネット 高橋行憲社長(左写真)と埼玉信用金庫 篠原光行専務理事



埼玉県からのお知らせ

埼玉県地域防災計画を修正しました

県では、地震や風水害などの災害に迅速かつ適確に対応するため「埼玉県地域防災計画」を定めています。

この度、東日本大震災で明らかになつた課題への対策を計画に盛り込みました。

主な修正事項は次のとおりです。

●帰宅困難者対策

帰宅困難者対策協議会（仮称）の設置、駅周辺の一時滞在施設の確保、企業等において自社従業員を一定期間留めるための体制整備、学校防災マニュアルによる児童生徒の引き渡しのルー化など

●放射能汚染対策

県民や避難住民に対する外部被ばくの簡易測定実施、飲料水・農畜水産物などの放射性物質の測定実施と的確な情報提供など

修正した埼玉県地域防災計画は、県HPをご覧ください。

<http://www.pref.saitama.lg.jp/page/>

903-2011129-29.html

○問い合わせ先

県消防防災課

(048-830-8181)

中小企業若手社員 海外研修支援事業 研修生による知事への 報告会が開催されました

経済のグローバル化が進展する中、県内中小企業においても海外展開する企業が増加しています。事業の展開に当たっては、世界の舞台で活躍できる人材の育成が不可欠です。

このため県では、平成23年度に「中小企業若手社員海外研修支援制度補助金」を創設して、中小企業の若手社員の海外研修を支援しています。

2月20日には知事公館大会議室で、今回この補助制度を活用して、中国、アメリカ、インド、タイなどでの海外研修に参加した中小企業の若手社員11名が研修の成果を知事に報告しました。研修生からは、「日本と現地の従業員の違いを感じた」、「中国企業の頭脳を感じた」など海外の企業の状況を肌で感じたという報告や、「今後英語でのコミュニケーション力をさらに磨いて、自社の海外展開に貢献したい」など、今後の抱負についての報告がありました。

○問い合わせ先

県産業労働政策課

(048-830-3723)



報告会の様子

平成23年労働組合基礎調査結果について

—県内の労働組合は13年連続で減少、
組合員数は2年ぶりに減少—

県では、県内のすべての労働組合を対象に、組合員数の状況等について毎年調査を実施しています。

このたび、平成23年6月30日現在の県内の労働組合数及び組合員数を取りまとめましたので、お知らせします。

●調査結果の概要

①組合数及び組合員数

県内の労働組合数は1,844組合、組合員数は373,379人です。

前年と比較して、組合数は19組合（1.0%）減少し、組合員数も13,105人（3.4%）減少しました。

②産業別組織状況

製造業が600組合、106,079人で組合数、組合員数ともに最も多く、組合数で全体の32.5%、組合員数で全体の28.4%を占めています。

③企業規模別（民営企業）組織状況

組合数では、従業員299人以下の企業の組合が全体の35.9%となっています。

また、組合員数では、従業員1,000人以上の企業の組合員が全体の54.6%を占めています。

④パートタイム労働者の組合員

パートタイム労働者の組合員数は43,757人で、前年より10人（0.0%）増加しました。

また、県内の全労働組合員数に占める割合は11.7%となり、前年よりも0.4ポイント上昇しました。

○問い合わせ先

県勤労者福祉課（048-830-4517）

平成23年度中小企業賃金実態調査結果について

—所定時間内賃金は288,959円で
前年より0.3%増、4年ぶりの増加—

県では、合理的な賃金決定及び労使関係の安定に資するため、毎年7月31日を基準日として県内1,500事業所を対象に中小企業賃金実態調査を実施しています。このたび、回答のあった事業所の状況（平成23年7月31日現在）を取りまとめましたので、お知らせします。

●調査結果の概要

①正社員

正社員の平均所定時間内賃金は288,959円で、前年より783円、0.3%増加し、4年ぶりの増加となりました。一方で、所定時間外賃金と賃金総額は減少しました。

②男女別所定内賃金

男女別の所定内賃金は、男性が310,425円、女性が222,358円でした。男性を100とすると女性は71.6で、前年より0.6ポイント伸びており、男女の賃金格差が縮まっている傾向が見受けられます。

③パートタイム労働者

パートタイム労働者の1時間当たり平均所定時間内賃金（時給）は1,016円で、前年より21円、2.1%の増加に転じました。

④両立支援策

育児休業取得率は、男性が0.4%、女性が91.8%でした。また、仕事と育児や介護との両立支援制度を整備している事業所の割合は、育児が69.8%、介護が62.6%となりました。

○問い合わせ先

県勤労者福祉課（048-830-4515）

<http://www.pref.saitama.lg.jp/page/chinginchousa.html>

「21世紀のエネルギー安全保障戦略」

田中・日本エネルギー経済研究所特別顧問が常任理事会で講演

経団連が2月1日に開催した常任理事会で、日本エネルギー経済研究所の田中伸男特別顧問が、「21世紀のエネルギー安全保障戦略」をテーマに講演した。講演の概要は次のとおり。

新興国の需要増

IEA（国際エネルギー機関）が昨年11月に公表した「World Energy Outlook 2011」では、中国とインドを中心とする新興国が世界のエネルギー需要を牽引し続けると示している。2010年から2035年までに世界のエネルギー需要は33%増加すると予想されるが、そのうちの50%を中国とインドが、33%をその他のアジア諸国が占める。

石油の純輸入量は、アメリカは軽質タイトオイルの増加と燃費の改善により、1000万バレルから600万バレルに減少する一方で、中国は1200万バレル、インドは600万バレル以上を輸入するようになる。天然ガスでも、中国の需要は現在の5倍になってヨーロッパ全域と同じ規模になる。

世界の需要増に対応するため、天

然ガスと再生可能エネルギーの重要性が増すが、再生可能エネルギーは、資本集約的で高コストであり、原子力は重要なオプションであり続ける。21世紀のエネルギーセキュリティはアジアをめぐるイシューである。

低原子力ケース

Outlookでは、低原子力ケースを示した。福島事故を受けてOEC D諸国で原子力発電所の新設がなく、非OEC D諸国での新設が予定の半分となると想定している。この場合、コスト増、セキュリティリスク増、CO₂排出増の三重苦になる。日本の原子力発電の割合は、現在30%であるものが、低原子力ケースでは18%まで低下する。日本のガス輸入金額は倍増し、年6兆円に達する。他方、気候変動目標に関しては、90年比25%削減は不可能になる。また原発再稼働がないと、年間3兆円の負担増になる。

日本へのメッセージ

21世紀のエネルギー安全保障とは、多様な電源をうまく組み合わせ、持続可能な電力を安定的に供給するという包括的エネルギー安全保障である。その点でEU27カ国は地域全体を連系線やパイプラインでつなぎ、エネルギー自給率を50%に維持している。EUは原子力、再生可能エネルギー、化石燃料を上手に利用しており、日本もこれを見習うべきだ。

また、国境を越えて拡大した電力市場は再生可能エネルギーの利用を促進する。さらに、北アフリカの砂漠地帯ともネットワークを構築する大きな取り組みも進んでいる。

アジアでも、日本と韓国、中国、ロシア、台湾、ASEAN諸国、インドまで電力網を一体化することを目指す構想もある。ロシアとのガスパイプラインも重要だろう。エネルギーの安全保障のためには、中国、ASEAN諸国、インド、ロシアなどへ多層的に外交を行わなければならない。

日本では今後、安全保障、コスト、地球環境保護の3つの観点から、原子力、再生可能エネルギー、ガス等を含め、最良のエネルギー・ミックスを選ぶべきだ。そして、多様な電力を支えるために、国内の周波数を統一する一方、国外の電力系統とも接続することが重要である。

原子力は、安全性の確保を前提として、世界でも重要な選択肢であり続ける。各国のエネルギー大臣から「日本は原子力発電をやめろ」なんて言っていない。福島事故の教訓を示してほしい。そうすれば、より安全に原子力発電を利用できるようになる」と言われている。原子力に対する国民の理解を得るには、なぜ福島第二や女川、東海第二は事故を免れたのに、福島第一で事故が起きたのかを明らかにして対応策を示さなければならない。

定額残業手当制度

弁護士 安西 愈

最近、労基法四一条の管理監督者の該当性につき、労基監督官や裁判所の認定の判断が厳しくなり、使用者側は裁判ではいわずに連戦連敗の様相を呈している。

企業側としては、社内で定めた管理監督者に対しては、残業手当の支払を要しないと考え、部下である残業手当が支払われる者より高い賃金を定めてきているのが通例である。ところが、労基法上の管理監督者に当たらないことになり、残業手当を支払えといわれたとき、従前の賃金は残業手当の支払を受ける部下との均衡を考慮した残業手当も加味した賃金となつてくるので、それに相当する部分は基本賃金とは別の残業手当分として位置づけないと不合理であり、残業手当の実質的な二重支給になるといった問題が生じる。

労働法

また、従前から労基法上の管理監督者に該当しても、深夜手当は除外されていないことから、この対応として一般的に管理監督者に対しては、その都度深夜手当を計算して支払うということはせず、「労働協約就業規則その他によって深夜の割増賃金を含む所定賃金が定められて

いることが明らかな場合には、別に深夜業の割増賃金を支払う必要はない。」（昭和三年一月四日基発一五〇六号）という通達に従っている

たということもある。一般に、定額残業手当とか固定残業手当といわれるものは、あらかじめ一定の時間外労働分に対する割増賃金を毎月定額的な残業手当として、基本給の中に組み込んだり、別途定額手当（残業手当相当分）として、支払う制度をいう。

その要件は、「その支払額が法所定の計算方法による割増賃金額を上回る以上、割増賃金として一定額を支払うことも許されるが、現実の労働時間によって計算した割増賃金額が右一定額を上回っている場合には、労働者は使用者に対してその差額の支払いを請求することができる。」（昭和三年一月二六日大阪地裁判決）とされている。当該月の法定計算による金額が毎月の定額手当より多くなつたときは、法定額との差額を支払うという制度とすることが必要である。この制度は、「通常の労働時間の賃金に当たる部分と時間外及び深夜の割増賃金に当たる部分とを判別することのできる」ものでなければならず、法定の割増分が算定できない場合には無効となる（平成六年六月一三日最高裁二小判決）。

定額残業手当は、残業割増の代替の賃金であることが明白でなければならず、「時間外賃金を定額で支払うこと自体は、割増賃金部分が他の部分と明確に区別されており、その額が労働基準法所定の割増賃金額を超える限り違法ではない。

なお、固定残業代が当月過払いとなったときは、翌月分に充当清算する制度も明白に規定化されている（平成二二年三月二七日東京地裁判決）とされている。

事業だより

一月六日～三月一日

- ◆一・二〇 第二五回生き生き職場体験交流の集い（ソニックシティ）
- ◆一・二三 第二回人事・労務委員会（ソニックシティ）
- ◆二・六 中部地区協議会（ソニックシティ）
- ◆二・七 北部地区協議会（株リケン熊谷事業所）
- ◆二・一〇 西部地区協議会（丸広百貨店）
- ◆二・一三 ものつくり大学との合同特別公開講座（パレスホテル大宮）
- ◆二・一五 南部地区協議会（川口リリア）
- ◆二・二二 税制セミナー（ソニックシティ）
- ◆二・二七 青年経営者部会新春特別講演会（パレスホテル大宮）
- ◆二・二八 埼玉大学との合同特別公開講座第四講（ソニックシティ）
- ◆三・七 特別セミナー（ソニックシティ）
- ◆三・一二 地域社会問題委員会（ソニックシティ）



第186回

▼今冬の日本列島は厳しい寒波に襲われている。北海道や日本海側では豪雪と寒気に、太平洋側では連日の厳寒である。雪深い新潟県

生まれの小生。自分の小学校入学時の写真を久し振りに探し見たら、四月というのに長靴を履いており周りには氷状態に固まった雪があり、丁度雪解け時期を感じさせられた。この様子を見ると今の雪も不思議とは思われない。

新潟では静かな夜は深々と雪が降り続き、翌朝は雪避けからのスタートであった。二階の高さに道路があり、その道路に出るための道作りだった。勿論、一晩で一メートルを超す降雪では屋根の雪降ろしも重要な若者の仕事で、その大変さを思い出している。

しかし、十九日には「雨水」を迎え徐々に雪が雨に変わってくると思える。暑さ寒さも彼岸までとよくいわれるが、もう少しで日本列島も梅桃そして桜に囲まれる暖かな時期を迎えることになるだろう。

間もなく一年を迎える東日本の震災地の方々のためにも、一刻も早い春を待ち願ってやまない。

こんな時にこんな事を!

和宮英之 エッセイスト

▼日本の現状を「平成維新」と名付けた人が居たが、明治維新との比較であろう。西郷隆盛や大久保利通・木戸孝允などが明治維新という浮かんできると、政治が混迷している日本で先人達に匹敵するよう「政治家」は果たして存在するのだろうか？

自分の私利私欲に走らず、国民のため国家を守るために、命を捨てて尽力してくれる真の政治家が多く出現してくれることを切に望み、ケネディが言った「国が何かをしてくれるのではなく、国のために何が出来るか」を皆で考える時期を今の日本は間違いないと迎えていると感じているのは私だけではないと思っ

▼国と同様に企業でも同様な事がいえる。TVで「神様の女房」をみた。松下幸之助の女房の物語である。現在このような物語が放映されるのは「原点に戻れ!」と伝えているのではないだろうか? 企業でも家庭でも学校でも地域でも、昔良き時代の日本の美学を思い出して欲しいと願っているような気がしてならない。個々の企業で考え方などはマチマチかも知れないが、自社独自の「さじ加減」で将来へ向けての指針などを、この時期だからこそ（平成維新）是非とも確立させて欲しいと願っている。

UR賃貸住宅

コスト削減!

礼金・仲介手数料・更新料不要なので、コスト削減をお手伝い。

団地いろいろ!

単身者用から、家族向けまで。首都圏で約700団地(埼玉県内約130団地)から選べます。

埼玉県内約130団地!!

社宅ならUR賃貸住宅

社有から借り上げへ。社宅の合理化は大きな流れ。でも、社宅の借り上げにも何かと不便や不安がつきものです。そこでご検討いただきたいのが「UR賃貸住宅」。社宅に関するさまざまな悩みをしっかりと解決します!!

社宅UR

HPからも予約できます

検索

入居者募集中!

まだまだありますUR賃貸住宅物件探しはこちらへ
UR八重洲営業センター 法人専用窓口 TEL03-3271-0610
UR新宿営業センター 法人専用窓口 TEL03-3347-4387

街に、ルネッサンス
UR 都市機構

埼玉地域支社 住まいサポート業務部営業推進チーム
〒336-0027 さいたま市南区沼影一丁目10番1号ラムザタワーA棟
tel.048-844-2238

★正・副会長会議
日時 3月26日(月)13時30分～14時20分
会場 ソニックシティ904会議室
内容 理事会に付議する議題の検討、その他

★理事會・講演會
日時 3月26日(月)14時30分～16時40分
会場 ソニックシティ906会議室
内容 平成24年度予算・事業計画、その他

講演會
演題 「超高齢社会、人口減少社会における選挙制度のあり方」
講師 一橋大学経済研究所教授 青木玲子氏

★新入社員研修
日時 4月6日(金)9時30分～17時
会場 ソニックシティ603会議室
内容 基調講演・講義
講師 りそな総合研究所(株)パートナー ユナイテッドシネマ(株) 人事総務部人材開発担当マネージャー

★正・副会長会議
日時 4月19日(木)13時30分～14時
会場 パレスホテル大宮
内容 理事会に付議する議題の検討、その他

★理事會・講演會・懇親會
日時 4月19日(木)14時10分～18時
会場 パレスホテル大宮
内容 平成23年度決算・事業報告、定款変更、役員選任、一般社団法人移行議案、その他

講演會
演題 「震災後の日本経済を展望する」
講師 学習院大学 副学長 宮川 努氏

★平成24年度埼玉県産産業労働施策説明會
日時 4月24日(火)13時30分～16時30分
会場 ソニックシティ906会議室
★定時総會
日時 5月10日(木)13時30分～18時30分
会場 パレスホテル大宮

内容 平成23年度決算・事業報告、平成24年度予算・事業計画、定款変更、役員選任、一般社団法人への移行、その他

講演會
演題 「貢献力の経営」
講師 (株)エヌ・ティ・ティ・データ 代表取締役社長 山下 徹氏
★平成24年度第1回トップセミナー
日時 5月21日(月)14時～16時
演題 「途上国化する日本と日本経済再生の条件とは？」

講師 東京理科大学大学院 新領域創成科学研究科 教授 戸堂康之氏
★平成24年度第2回トップセミナー
日時 5月28日(月)14時～16時
演題 「経営理念とイノベーション」
あこがれを信じ求める力が企業を動かす

講師 東京理科大学大学院 イノベーション研究科 技術経営専攻 (MOT)教授 佐々木圭吾氏

〈新入会のご案内〉

(株)イープラスワン
代表取締役 浅野 喜宏
所沢市喜多町一六一七
電話〇四二九〇三三七三一一
(資) 一千五百万円
(従) 九五名
人材派遣業・職業紹介業
(株)ウェルディングアロイズ・ジャパン
代表取締役 青田 利一
さいたま市岩槻区上野四一六一三三
電話〇四八七九三三三〇三一一
(資) 一千万円
(従) 二五名
自動車溶接技術による金属加工業
(株)エクセル
代表取締役 黒沢 明
川口市栄町二一一一一八
電話〇四八二二五九一一九九一
(資) 一千七百万円

(従) 一三名

旅行業 淑徳大学
学長 長谷川 匡俊
入間郡三芳町藤久保二二五〇一
電話〇四九一一二七四一一五一
大学

〈代表者変更〉

(株)栄光
代表取締役社長 関田 美三男(旧 近藤 好紀)
埼玉カス(株) 代表取締役社長 田村 嘉三郎(旧 松野 尚武)
三位電気(株) 代表取締役社長 佐藤 仁(旧 佐藤 照彦)
北海製罐(株)岩槻工場 工場長 三浦 次雄(旧 宇田川 誠)

〈住所変更〉

(株)栄光
さいたま市南区文蔵一―二一九
(旧) さいたま市南区南本町一―二一三
エービーイーダイヤモンド(株) 入間市宮寺二五九五―七
(旧) 所沢市小手指町五一―三一六
(有)シーエスサービス
川口市戸塚三三三二二七―五〇四
(旧) 川口市東川口二二二五―一六

豪華五人が勢揃い!!

江戸落語 五人男

桂歌丸／三遊亭好楽／三遊亭円楽／
林家たい平／林家木久扇



埼玉音協

平成24年5月26日(土)

13:15開場 14:00開演

▶会場／川口総合文化センター リリア・メインホール

▶会費／特等席7,400円(一般8,000円を)(全席指定・税込)

*お席の取り扱いの特等席のみとなります。(お土産付) 一等席、二等席、三等席の取扱いはございません。

*未就学児のご入場はご遠慮ください。

埼経協ニュース三六七号
2012年3月15日発行
さいたま市大宮区桜木町一七五八七
ソニックシティビル九階
発行所 埼玉県経営者協会
発行人 根岸茂文
編集人
電話〇四八六四七四〇〇
印刷所 望月印刷株式会社
さいたま市中央区阿弥五八三六